令和６年入学生用

大阪教育大学教育学部
学位プログラム

【２０２４】

大阪教育大学

大阪教育大学 教育学部
学位プログラム

【２０２４】

目　次

学位プログラムとは…… 2
学修成果評価システムとは…… 3
養成する人材像に必要となる資質・能力とは…… 4
学校教育教員養成課程
幼小教育（幼児教育）プログラム …… 6
幼小教育（小学校教育）プログラム …… 10
次世代教育（教育探究）プログラム …… 14
次世代教育（ICT 教育）プログラム …… 18
教科教育プログラム …… 24
特別支援教育プログラム …… 28
小学校教育（夜間）５年プログラム …… 32
養護教諭養成課程
養護教育プログラム …… 38
教育協働学科
教育心理科学プログラム …… 44
健康安全科学プログラム …… 47
理数情報（数理情報）プログラム …… 50
理数情報（自然科学）プログラム …… 53
グローバル教育（英語コミュニケーション）プログラム …… 56
グローバル教育（多文化リテラシー）プログラム …… 59
芸術表現（音楽表現）プログラム …… 62
芸術表現（美術表現）プログラム …… 65
スポーツ科学プログラム …… 68

学位プログラムとは

学位プログラムは、平成29年度学部教育より導入し、
各プログラムに定める到達目標（卒業時に身に付ける力）達成型の教育課程として、運用を行っています。
「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」、「教育課程編成・実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）」及び
「入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）」を一体的に策定のうえ、
卒業時に到達目標を獲得できることを念頭に置き、カリキュラムを実施することとします。

教員養成課程

教育協働学科

到達目標

教員養成課程

①豊かな教養と広い視野
②教職に必要な素養
③指導内容の理解と実践力※1
④子どもへの対応の理解
⑤ICTや教育データを利活用する力※2
⑥教職力量を自らひらく力

教育協働学科

①豊かな教養と広い視野
②教育理解
③協働力
④専門的知識・技能
⑤教育協働実践力

到達目標達成型学位プログラム
3つのポリシーをコアとするプログラムシラバス

卒業認定・学位授与の方針
（ディプロマ・ポリシー）

一体的な策定と各段階における目標を明確化

入学者受入れの方針
（アドミッション・ポリシー）

教育課程編成・実施の方針
（カリキュラム・ポリシー）

学校種や専攻の特性に応じたプログラム

- ●幼小教育（幼児教育・小学校教育）プログラム
- ●次世代教育（教育探究・ICT教育）プログラム
- ●教科教育プログラム
- ●特別支援教育プログラム
- ●小学校教育（夜間）5年プログラム
- ●養護教育プログラム
- ●教育心理科学プログラム
- ●健康安全科学プログラム
- ●理数情報（自然科学・数理情報）プログラム
- ●グローバル教育（英語・多文化）プログラム
- ●芸術表現（音楽・美術）プログラム
- ●スポーツ科学プログラム

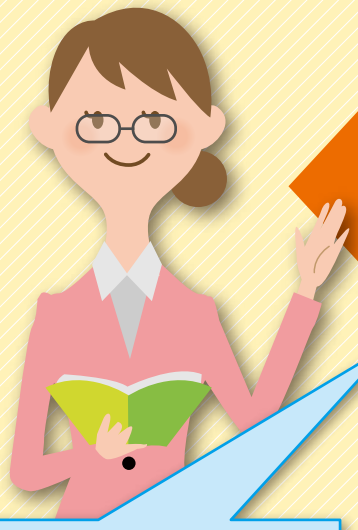
※1 養護教諭向けには、養護実践力
※2 学校教育教員養成課程のみ

学修成果評価システムとは

学業成績や学外実習、課外活動とボランティア活動などから構成される学修成果の蓄積と
到達目標への到達度を明らかにするポートフォリオの構築を行います。
学生自身が自己の学びをふり返り、次の学びのデザインを行うための新たなツールとして整備し、
主体的な学びを促進しようとするものです。

電子ポートフォリオをコアとする学生による学修成果評価システム

学修のふり返りと学びのデザイン



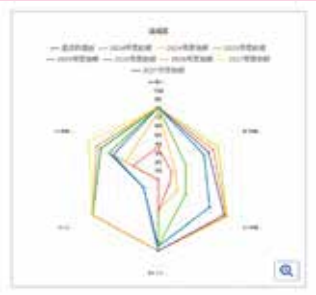
ポートフォリオを用いた指導教員との面談を通じた指導・助言

学修プロセスの蓄積

授業の成績や、学外実習、課外活動、ボランティア活動における取組みの成果をポートフォリオに蓄積し、活用を支援します。

学修成果の可視化

学位プログラムの到達目標に対応する授業科目をカリキュラムマップとして整備の上、到達目標への到達度をレーダーチャートにより明らかにします。



教育実践力の育成

キャンパスにおける学びをもとに、学校における教育実習や、インターンシップによる活動を通じて、これからの教職に求められる実践的資質・能力の形成プロセスを確認します。

※教育協働学科の学生は、
教員免許状取得希望者のみ

養成する人材像に必要となる資質・能力とは？

本学では、教員や教育協働人材に求められる資質・能力を次のとおり設定しています。
この資質・能力を基準として、履修カルテを活用し、授業やボランティア活動を通して学んだことをふり返り、
次の目標を設定するプロセスを通じて到達点を目指しましょう。

□豊かな教養と広い視野

- 人文、社会、自然、芸術、スポーツ等の学術的・実践的な基本的知識とアカデミックライティングなどの初年次教育を学び、キャリア形成に向けた、ICT活用能力、言語運用能力、コミュニケーション力、および論理的・批判的思考からなる汎用基礎力を身に付けている。
- 世界の多様性を理解し、異文化・多文化を受容できる寛容な態度を身に付けている。

教員養成課程

□教職に必要な素養

- 教育の理念や教育に関する歴史及び思想、並びに教職の意義、教員の職務内容についての基礎的な理解ができている。
- 教職員や校外の専門家、家庭や地域等を含めた他者と連携し、協働して課題を解決することの重要性を理解している。
- 人権意識を有し、学校教育に関する社会的、制度的、経営的事項、学校安全に関する基礎的な知識や技能を身に付けている。
- 幼児・児童・生徒を自律的な学習者として導くことの意義を理解している。

□指導内容の理解と実践力

- 幼稚園の保育又は小学校の各教科及び所属するコースに対応する中学校・高等学校の教科や教科外の指導に必要な専門的知識・技能の基本を身に付けている。
- 学校教育における教育課程編成の意義と基本原理を理解し、教職員の配置や施設の維持管理の観点や教科横断的な視点をもって組織的に教育課程を編成の上、実施するとともに、学校の実態に応じてカリキュラムマネジメントを行うことの重要性を理解している。
- 子どもの興味・関心を引き出す教材研究を行いながら、学習指導や授業の設計、実践、評価、改善を行う仕組みを構想することができる。
- 学習環境の整備ができ、また、アクティブ・ラーニングを取り入れた「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた学習者を中心とする指導計画の立案や授業づくりができる。

□養護実践力

- 養護の理念や思想、養護学、学校保健や学校安全に係る基礎理論・知識を学び、養護教諭の役割を明確に理解している。
- 健康観察や健康診断の意義や方法、保健室の役割やその機能について理解している。
- 子どもの心身の健康に関して、健康相談や救急処置に係る基礎的な知識・技能を身に付けている。
- 学校におけるICTの活用の意義を理解し、保健管理や保健教育等の実践や校務等にICTを活用することができる。

□子どもへの対応の理解

- 生徒指導の意義や理論を理解し、他の教職員や専門家等と連携し、児童生徒に応じた指導や集団指導を実践することができる。
- 教育相談の意義や理論と幼児・児童・生徒を支援するために必要となる基礎的知識を有し、組織的な取り組みや学外の専門家等と連携する重要性を理解している。
- 進路指導やキャリア教育の意義を理解し、これらの視点からの授業改善やカウンセリングの充実に必要となる基礎的な知識を身に付けている。
- 子どもの心身の発達と学習の過程についての基礎的な理解ができている。
- 外国にルーツのある子どもや障がいのある子どもなど、特別な配慮や支援を必要とする子どもの特性や社会的包摂の理念を理解したうえで、学校教員として対応するために必要となる知識や支援の方法を身に付けている。
- 道徳教育の理論及び指導法、特別活動の指導法及び総合的な学習や探究の時間の指導法について理解している。

□教職力量を自らひらく力

- 実践的な教育活動に参画し、幼児・児童・生徒と積極的にコミュニケーションをとることができる。
- 自らの学修を記録などに基づいて省察し、目標達成に向けて成長しようとする意欲を身に付けている。
- 生涯にわたる教師の成長の特性と学習のあり方を理解の上、学び続ける教師としての姿勢や態度を身に付けている。

教育協働学科

□教育理解

- 社会や教育現場のグローバル化に対応し、学校や地域等と連携・協働しながら課題解決にあたる教育協働人材としての意欲や態度を身に付けている。
- 教育の理念や歴史及び思想、子どもの発達と心理の理解、教育制度全般や学校の組織と役割の理解等の教育の基礎理論、及び学校安全に関する理解を含む教育についての基礎的知識を身に付けている。

□協働力

- 他者と協働して問題を分析し、その課題を整理することができる。
- 他者と協働して問題解決に向けてのプランを策定することができる。
- 課題解決プランを他者と協働して実行するための実践力を身に付けている。

□専門的知識・技能

- 所属する専攻・コースの分野に係る専門的知識・技能を備えている。
- 専門的知識・技能を用いて、専門分野に関わる内容やその意義を社会に向けて的確に伝達、表現することができる。
- 専門的知識・技能を主体的に活用し、行動することができる。

□教育協働実践力

- 教育的視点から学校・家庭・地域・社会と連携・協働することで、グローバル時代における多様な課題を解決するために実践的に行動できる。

学校教育教員養成課程

幼小教育（幼児教育）プログラム
取得できる学位：学士（教育学）

◆プログラムの概要と人材養成のねらい

本プログラムでは，幼児を理解する力や基礎的な指導力を身に付け，幼児教育と小学校教育の接続を踏まえた総合的な視点を持って教育に当たることのできる実践力のある幼稚園教員を養成します。

幼稚園の保育に必要となる知識・技能を修得し，幼児を中心とする保育を通じて，幼児が遊びを通した学び等に主体的に関わるように誘うとともに，小学校教育への接続を踏まえた幼児を理解する力，豊かな表現力及び高度な専門的実践力を身につけた教員の養成をめざします。

◆プログラムの到達目標（ディプロマ・ポリシー）

（１）豊かな教養と広い視野

・人文，社会，自然，芸術，スポーツ等の学術的・実践的な基本的知識とアカデミックライティングなどの初年次に必要な基本的スキルを学び，キャリア形成に向けた，ICT活用能力，言語運用能力，コミュニケーション力，および論理的・批判的思考からなる汎用基礎力を身に付けている。

・世界の多様性を理解し，異文化・多文化を受容できる寛容な態度を身に付けている。

（２）教職に必要な素養

・教育の理念や教育に関する歴史及び思想，並びに教職の意義，教員の職務内容についての基礎的な理解ができている。

・教職員や園外の専門家，家庭や地域等を含めた他者と連携し，協働して課題を解決することの重要性を理解している。

・人権意識を有し，学校教育に関する社会的，制度的，経営的事項，学校安全に関する基礎的な知識や技能を身に付けている。

・幼児の能動的に環境に関わる態度を育むことの意義を理解している。

（３）指導内容の理解と実践力

・保育の各領域の指導に必要な専門的知識・技能の基本を身に付けている。

・幼児教育における教育課程編成の意義と基本原理を理解し，教職員の配置や施設の維持管理の観点や領域横断的な視点をもって組織的に教育課程を編成の上，実施するとともに，幼稚園の実態に応じてカリキュラム・マネジメントを行うことの重要性を理解している。

・幼児の興味・関心を引き出す教材研究を行いながら，保育の設計，実践，評価，改善を行う仕組みを構想することができる。

・保育環境の整備ができ，また，アクティブ・ラーニングを取り入れ，「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」との関連を考慮しながら，幼児一人一人の特性に応じた指導計画の立案ができる。

（４）子どもへの対応の理解

・幼児を保育する意義や理論を理解し，他の教職員や専門家等と連携し，幼児に応じた指導や集団での保育を実践することができる。

・教育相談の意義や理論と幼児を支援するために必要となる基礎的知識を有し，組織的な取り組みや園外の専門家等と連携する重要性を理解している。 ・幼児の心身の発達と学習の過程についての基礎的な理解ができている。 ・外国にルーツのある幼児や障がいのある幼児など，特別な配慮や支援を必要とする幼児の特性や社会的包摂の理念を理解したうえで，幼稚園教員として対応するために必要となる知識や支援の方法を身に付けている。
（５）ICT 活用や教育データを利活用する力 ・幼稚園における ICT の活用の意義を理解し，保育や園務等に ICT を活用するとともに，幼児の直接的・具体的な体験を基盤としながら ICT を活用した保育を構想することができる。 ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けて，幼児の学びの改善を図るため教育データを適切に活用することができる。
（６）教職力量を自らひらく力 ・実践的な教育活動に参画し，幼児と積極的にコミュニケーションをとることができる。 ・自らの学修を記録などに基づいて省察し，目標達成に向けて成長しようとする意欲を身に付けている。 ・生涯にわたる教師の成長の特性と学習のあり方を理解の上，学び続ける教師としての姿勢や態度を身に付けている。

◆カリキュラム立案と実施方法についての方針（カリキュラム・ポリシー）

●豊かな教養と広い視野を身に付けるため，学術的な基本的知識の獲得とアカデミックライティングなどの大学生活を送る上で必要な資質・能力やキャリア形成に向けた語学運用能力，ICT 活用能力の育成などを盛り込む教養教育の質的充実を図る。 ●教職に必要な素養を身に付けるため，「幼小連携教育論Ⅰ・Ⅱ」などの教職基礎科目，「教育総論」や「教職へのとびら」，「学校の役割と経営」，「学校安全」などの教職専門科目を体系的に編成する。 ●指導内容の理解と実践力を育成するため，保育内容指導法科目，領域専門科目，小学校の各教科に係る教科専門科目，専門教育としての幼稚園教育専門科目と，「幼児教育課程論」などの教職専門科目を体系的に編成する。 ●子どもへの対応の理解を深めるため，「発達と学習の心理学」，「幼児理解と教育相談」，「特別支援教育の基礎」などの教職専門科目と，「ダイバーシティと教育」や「現代社会と子どもの権利」などのフラッグシップ指定科目を体系的に編成する。 ●ICT や教育データを利活用する力を育成するため，「幼児教育指導法」などの教職専門科目を体系的に編成する。 ●教職力量を自らひらく力を育成するため，学校インターンシップ科目，「教育実習」や「教職実践演習」などの教職専門科目と，「教職のための省察入門」などのフラッグシップ指定科目を体系的に編成する。 ●各授業は，講義・演習・実験・実習などの方法により展開する。 ●成績評価は，全学共通の評価基準を明示の上，プレゼンテーション，レポート，試験など，多様な方法により行うものとするとともに，どのように成績に反映されるか，シラバスに明記する。

●指導技術を向上させるための研修や教員同士での授業参観などを定期的に開催し，授業改善に取り組む。

◆プログラムの履修要件（アドミッション・ポリシー）

●高等学校で履修した教科・科目における基礎学力を有している人
●教職に必要な知識や技能，領域や小学校教科に関わる専門分野への関心があり，それらを学ぶための十分な学力と適性を有している人
●社会の多様性を理解し，多様な人々とコミュニケーションを図り，協働できる能力を身に付けようと思っている人
●子どもたちの成長に関わることへの関心があり，幼稚園等での教職に就くことを強く希望し，探究心を持って主体的に学ぶ態度を有している人

◆各回生の到達目標

履修回生	到達目標
１回生	豊かな教養と広い視野を醸成する上で必要不可欠な基本的知識･技能を体系的に理解し，修得する。 教職の意義や教員の役割，職務内容及び教育を考えていく上で必要不可欠な基本的理念や思想を歴史的・体系的に理解し，教職への動機づけを図る。 また，幼児の発達および学びの基礎的課程とその「みとり」，幼児の情動と社会性の発達，障がいのある子どもの理解と支援，保護者の支援などについて理解する。 幼児理解と教育相談のための基本姿勢を確認するとともに，各理論の統合的理解や，方法のマルチ・メソッド的な適用をするための観点を学ぶとともに，感情労働についても理解を深める。 ダイバーシティ教育の基礎について学び，現代社会や幼児教育における子どもの多様性について理解を深め，保育現場の観察経験から学び続ける教師のための素地を形成する。 幼稚園教諭として必要となる各領域に関する基礎的知識・技能を修得する。
２回生	人権の尊重，子どもの生活背景について理解し，学校の役割と経営についての基礎知識を修得するとともに学習指導や学級経営等における教師として必要な指導力の基礎を養う。 幼稚園での保育活動から自らの実践を振り返り，学び続ける教師となるための基礎的な資質・能力を育成する。 幼稚園教育要領を踏まえ，今日の保育実践の方法と技術を身につける。そのために，附属幼稚園や公立幼稚園などでの観察の機会をなるべく多くもつ。 また，幼稚園教諭として必要となる保育内容に関する基礎的知識･技能を総合的に修得するとともに，「幼児教育インターンシップ」による現場観察･体験活動を通じて，様々な業務の理解を含む教職実践に向けた基礎的知識･技能を習得する。

３回生	幼稚園教育要領の特徴や変遷などをふまえ，教育課程編成の視点を学ぶ。また，実践的な模擬保育，指導案作成及び教材研究を通じて，更なる指導技術の向上を図り，教育実習の履修前に修得すべき知識・技能を修得する。 「しょうがい共生」「多文化共生」「子育て支援」などをめぐって，知識の更新と，相互触発を行う力量をつける。 また，これまでの科目を修得した上で附属幼稚園での実習を行い，保育現場における経験から，成果と課題を再認識する。 その後に，最新の保育課題や子育ての課題や対策実践についての知見を，各種メディアや専門研修機関の情報誌やサイトを通して主体的に収集する。そして，その知見を吟味し，自らの意見を述べあうことで，実践の主体者としての意識を涵養する。
４回生	教員になるために必要と考える専攻専門科目の履修を通じて，更なる深い専門的知識と技能を修得する。 ４年間の教職課程の集大成として教員として必要な知識･技能全体について，到達点と課題を確認し，課題克服に努める。

幼小教育（小学校教育）プログラム
取得できる学位：学士（教育学）

◆プログラムの概要と人材養成のねらい

本プログラムでは，児童を理解する力や基礎的な指導力を身に付け，幼児教育と小学校教育の接続を踏まえた総合的な視点を持って教育に当たることのできる実践力のある小学校教員を養成します。

幼児教育からの接続を踏まえた小学校の全教科にわたる教科指導に必要となる知識・技能を修得し，児童を自律的な学習者として導くことを目的として，児童の主体的な学びを支援するとともに，主体的・対話的で深い学びの充実に向けた授業改善に取り組みながら，学校教育の質の向上に寄与することができる教員の養成をめざします。

◆プログラムの到達目標（ディプロマ・ポリシー）

（１）豊かな教養と広い視野

・人文，社会，自然，芸術，スポーツ等の学術的・実践的な基本的知識とアカデミックライティングなどの初年次に必要な基本的スキルを学び，キャリア形成に向けた，ICT活用能力，言語運用能力，コミュニケーション力，および論理的・批判的思考からなる汎用基礎力を身に付けている。

・世界の多様性を理解し，異文化・多文化を受容できる寛容な態度を身に付けている。

（２）教職に必要な素養

・教育の理念や教育に関する歴史及び思想，並びに教職の意義，教員の職務内容についての基礎的な理解ができている。

・教職員や校外の専門家，家庭や地域等を含めた他者と連携し，協働して課題を解決することの重要性を理解している。

・人権意識を有し，学校教育に関する社会的，制度的，経営的事項，学校安全に関する基礎的な知識や技能を身に付けている。

・児童を自律的な学習者として導くことの意義を理解している。

（３）指導内容の理解と実践力

・小学校の各教科の指導に必要な専門的知識・技能の基本を身に付けている。

・学校教育における教育課程編成の意義と基本原理を理解し，教職員の配置や施設の維持管理の観点や教科横断的な視点をもって組織的に教育課程を編成の上，実施するとともに，学校の実態に応じてカリキュラム・マネジメントを行うことの重要性を理解している。

・子どもの興味・関心を引き出す教材研究を行いながら，学習指導や授業の設計，実践，評価，改善を行う仕組みを構想することができる。

・学習環境の整備ができ，また，アクティブ・ラーニングを取り入れた「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた学習者を中心とする指導計画の立案や授業づくりができる。

（４）子どもへの対応の理解

・生徒指導の意義や理論を理解し，他の教職員や専門家等と連携し，児童に応じた指導や集団指導を実践することができる。

・教育相談の意義や理論と児童を支援するために必要となる基礎的知識を有し，組織的な取り組みや学外の専門家等と連携する重要性を理解している。 ・進路指導やキャリア教育の意義を理解し，これらの視点からの授業改善やカウンセリングの充実に必要となる基礎的な知識を身に付けている。 ・子どもの心身の発達と学習の過程についての基礎的な理解ができている。 ・外国にルーツのある子どもや障がいのある子どもなど，特別な配慮や支援を必要とする子どもの特性や社会的包摂の理念を理解したうえで，学校教員として対応するために必要となる知識や支援の方法を身に付けている。 ・道徳教育の理論及び指導法，特別活動の指導法及び総合的な学習や探究の時間の指導法について理解している。
（５）ICT 活用や教育データを利活用する力 ・学校における ICT の活用の意義を理解し，授業や校務等に ICT を活用するとともに，児童の ICT 活用能力を育成するための授業を構想することができる。 ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けて，児童の学習の改善を図るため教育データを適切に活用することができる。
（６）教職力量を自らひらく力 ・実践的な教育活動に参画し，児童と積極的にコミュニケーションをとることができる。 ・自らの学修を記録などに基づいて省察し，目標達成に向けて成長しようとする意欲を身に付けている。 ・生涯にわたる教師の成長の特性と学習のあり方を理解の上，学び続ける教師としての姿勢や態度を身に付けている。

◆カリキュラム立案と実施方法についての方針（カリキュラム・ポリシー）

●豊かな教養と広い視野を身に付けるため，学術的な基本的知識の獲得とアカデミックライティングなどの大学生活を送る上で必要な資質・能力やキャリア形成に向けた語学運用能力，ICT 活用能力の育成などを盛り込む教養教育の質的充実を図る。 ●教職に必要な素養を身に付けるため，「幼小連携教育論Ⅰ・Ⅱ」などの教職基礎科目，「教育総論」や「教職へのとびら」，「学校の役割と経営」，「学校安全」などの教職専門科目と，「ファシリテーターとしての教員Ⅰ」などのフラッグシップ指定科目を体系的に編成する。 ●指導内容の理解と実践力を育成するため，小学校の各教科に係る教科専門科目及び指導法科目，教職や教育実践，教科教育からなる系列専門科目などの科目と，「教育課程論（カリキュラム・マネジメントを含む。）」などの教職専門科目，並びに「教科横断と探究学習Ⅰ」や「学習者中心の授業デザインⅠ」などのフラッグシップ指定科目を体系的に編成する。 ●子どもへの対応の理解を深めるため，「発達と学習の心理学」，「生徒指導論」，「教育相談の理論と方法」，「道徳教育論」，「特別活動論」，「総合的な学習の時間の指導法」や「特別支援教育の基礎」などの教職専門科目と，「ダイバーシティと教育」や「現代社会と子どもの権利」などのフラッグシップ指定科目を体系的に編成する。 ●ICT や教育データを利活用する力を育成するため，「ICT 活用の理論と方法」などの教職専門科目と，「教育データの活用Ⅰ」などのフラッグシップ指定科目を体系的に編

成する。
●教職力量を自らひらく力を育成するため，学校インターンシップ科目，「教育実習」や「教職実践演習」などの教職専門科目と，「教職のための省察入門」などのフラッグシップ指定科目を体系的に編成する。
●各授業は，講義・演習・実験・実習などの方法により展開する。
●成績評価は，全学共通の評価基準を明示の上，プレゼンテーション，レポート，試験など，多様な方法により行うものとするとともに，どのように成績に反映されるか，シラバスに明記する。
●指導技術を向上させるための研修や教員同士での授業参観などを定期的に開催し，授業改善に取り組む。

◆プログラムの履修要件（アドミッション・ポリシー）

●高等学校で履修した教科・科目における基礎学力を有している人
●教職に必要な知識や技能，領域や小学校教科に関わる専門分野への関心があり，それらを学ぶための十分な学力と適性を有している人
●社会の多様性を理解し，多様な人々とコミュニケーションを図り，協働できる能力を身に付けようと思っている人
●子どもたちの成長に関わることへの関心があり，小学校等での教職に就くことを強く希望し，探究心を持って主体的に学ぶ態度を有している人

◆各回生の到達目標

履修回生	到達目標
１回生	豊かな教養と広い視野を醸成する上で必要不可欠な基本的知識・技能を体系的に理解し，修得する。 教職の意義や教員の役割，職務内容及び教育を考えていく上で必要不可欠な基本的理念や思想を歴史的・体系的に理解し，教職への動機づけを図る。 児童の発達および学習の基礎的過程，いじめや不登校などの諸課題，障がいのある児童の理解と支援，教育測定と評価などについて理解する。 ダイバーシティ教育の基礎について学び，現代社会や学校教育における子どもの多様性について理解を深め，学校現場の観察経験から学び続ける教師のための素地を形成する。
２回生	人権の尊重，子どもの生活背景について理解し，学校の役割と経営についての基礎知識を修得するとともに学習指導や学級経営等における教師として必要な指導力の基礎を養う。 また，今日における生徒指導上の諸課題に関する理論的･実践的な認識を身に付けるとともに，学校安全や危機管理についての基本的事項を理解する。 情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方並びに児童及び生徒に情報活用能力を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。

	ダイバーシティ教育を基盤とした４つの領域について，教科を横断した探究的な学び，教育データの活用方法，ファシリテーターとしての教師の役割及び学習者を中心とする授業づくりの基礎的な理論を学ぶ。また，学校現場での教育活動から自らの実践を振り返り，学び続ける教師となるための基礎的な資質・能力を育成する。 学習指導要領を踏まえ，教育課程編成の視点を学ぶとともに，小学校教諭に必要な基礎的知識・技能や方法を修得する。また，教材研究・開発の方法を習得するとともに，学習指導案を作成し，それに基づいて模擬授業を実施し，授業づくりの基本を身に付ける。 さらには，学校インターンシップによる現場観察・体験活動を通じて，教職実践に向けた基礎的知識・技能を修得する。
３回生	道徳教育の歴史および主要な道徳教育理論・方法について理解し，道徳教育に関する基礎的知識を修得する。 教師が行う子どもの指導と援助に関して，心理学の基礎的な理論や教育相談（カウンセリングを含む）などの技法，いじめや不登校など子どもの問題行動について理解する。 子ども理解と自治活動の指導を中心とした特別活動の視点と，総合的な学習の時間の指導法を理解する。 ダイバーシティ教育を基盤とした４つの領域について，教科を横断した探究的な学び，教育データの活用方法，ファシリテーターとしての教師の役割及び学習者を中心とする授業づくりの発展的な理論を学び，実践を行う。 また，実践的な模擬授業，指導案作成及び教材研究を通じて，更なる指導技術の向上を図り，教育実習の履修前に修得すべき知識・技能を修得する。 附属学校や協力校等での教育実習を行い，学校現場における経験を踏まえ，学修成果と今後の課題を再認識する。
４回生	教員になるために必要と考える専攻専門科目の履修を通じて，更なる深い専門的知識と技能を修得する。 ４年間の教職課程の集大成として教員として必要な知識・技能全体について，到達点と課題を確認し，課題克服に努める。

次世代教育（教育探究）プログラム
取得できる学位：学士（教育学）

◆プログラムの概要と人材養成のねらい

本プログラムでは，変化が激しく予測困難な時代に対応するための学習観・授業観の転換を担う教師，すなわち，学習者中心の学びを支えることができる教師の育成を担うべく，児童・生徒を理解する力や基礎的な指導力を身に付け，次世代を切り拓く子どもたちの様々な課題に対処でき，次世代の学校教育をけん引できる教員を養成します。

子ども一人一人の特性や学習到達度等に応じた個別最適な学び，各教科での学習を実社会での課題発見・解決に活かしていくための教科横断的な学び，学びへの意欲を引き出すためのファシリテーション，子どもたちの多様化への対応等に関する知識・技能を基盤に，学習者を中心とする主体的・対話的で深い学びと他者と協働した探究的な学びを通じて児童・生徒を自律的な学習者へと導くための学習指導と生徒指導のあり方を探究し続ける教員の養成をめざします。

◆プログラムの到達目標（ディプロマ・ポリシー）

（１）豊かな教養と広い視野

・人文，社会，自然，芸術，スポーツ等の学術的・実践的な基本的知識とアカデミックライティングなどの初年次に必要な基本的スキルを学び，キャリア形成に向けた，ICT 活用能力，言語運用能力，コミュニケーション力，および論理的・批判的思考からなる汎用基礎力を身に付けている。

・世界の多様性を理解し，異文化・多文化を受容できる寛容な態度を身に付けている。

（２）教職に必要な素養

・教育の理念や教育に関する歴史及び思想，並びに教職の意義，教員の職務内容についての基礎的な理解ができている。

・教職員や校外の専門家，家庭や地域等を含めた他者と連携し，協働して課題を解決することの重要性を理解している。

・人権意識を有し，学校教育に関する社会的，制度的，経営的事項，学校安全に関する基礎的な知識や技能を身に付けている。

・児童を自律的な学習者として導くことの意義を理解している。

（３）指導内容の理解と実践力

・小学校の各教科や教育学，心理学，道徳教育学を踏まえた現代の教育課題に対応するための指導に必要な専門的知識・技能の基本を身に付けている。

・学校教育における教育課程編成の意義と基本原理を理解し，教職員の配置や施設の維持管理の観点や教科横断的な視点をもって組織的に教育課程を編成の上，実施するとともに，学校の実態に応じてカリキュラム・マネジメントを行うことの重要性を理解している。

・子どもの興味・関心を引き出す教材研究を行いながら，学習指導や授業の設計，実践，評価，改善を行う仕組みを構想することができる。

・学習環境の整備ができ，また，アクティブ・ラーニングを取り入れた「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた学習者を中心とする指導計画の立案

や授業づくりができる。
（４）子どもへの対応の理解 ・生徒指導の意義や理論を理解し，他の教職員や専門家等と連携し，児童に応じた指導や集団指導を実践することができる。 ・教育相談の意義や理論と児童を支援するために必要となる基礎的知識を有し，組織的な取り組みや学外の専門家等と連携する重要性を理解している。 ・進路指導やキャリア教育の意義を理解し，これらの視点からの授業改善やカウンセリングの充実に必要となる基礎的な知識を身に付けている。 ・子どもの心身の発達と学習の過程についての基礎的な理解ができている。 ・外国にルーツのある子どもや障がいのある子どもなど，特別な配慮や支援を必要とする子どもの特性や社会的包摂の理念を理解したうえで，学校教員として対応するために必要となる知識や支援の方法を身に付けている。 ・道徳教育の理論及び指導法，特別活動の指導法及び総合的な学習や探究の時間の指導法について理解している。
（５）ICT や教育データを利活用する力 ・学校における ICT の活用の意義を理解し，授業や校務等に ICT を活用するとともに，児童の ICT 活用能力を育成するための授業を構想することができる。 ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けて，児童の学習の改善を図るため教育データを適切に活用することができる。
（６）教職力量を自らひらく力 ・実践的な教育活動に参画し，児童と積極的にコミュニケーションをとることができる。 ・自らの学修を記録などに基づいて省察し，目標達成に向けて成長しようとする意欲を身に付けている。 ・生涯にわたる教師の成長の特性と学習のあり方を理解の上，学び続ける教師としての姿勢や態度を身に付けている。

◆カリキュラム立案と実施方法についての方針（カリキュラム・ポリシー）

●豊かな教養と広い視野を身に付けるため，学術的な基本的知識の獲得とアカデミックライティングなどの大学生活を送る上で必要な資質・能力やキャリア形成に向けた語学運用能力，ICT 活用能力の育成などを盛り込む教養教育の質的充実を図る。 ●教職に必要な素養を身に付けるため，「小・中一貫教育概論」などの教職基礎科目，「教育総論」や「教職へのとびら」，「学校の役割と経営」，「学校安全」などの教職専門科目と，「ファシリテーターとしての教員Ⅰ」などのフラッグシップ指定科目を体系的に編成する。 ●指導内容の理解と実践力を育成するため，小学校の各教科に係る教科専門科目及び指導法科目，「学校における ICT 活用」，「インクルーシブ教育実践論」からなる専攻共通科目，教育学，心理学，道徳教育学に加えて現代の教育課題に対応するための専門的知識・技能を修得するコース専門科目と，「教育課程論（カリキュラム・マネジメントを含む。）」などの教職専門科目，並びに「教科横断と探究学習Ⅰ」や「学習者中心の授業デザインⅠ」などのフラッグシップ指定科目を体系的に編成する。 ●子どもへの対応の理解を深めるため，「発達と学習の心理学」，「生徒指導論」，「教育

相談の理論と方法」,「道徳教育論」,「特別活動論」,「総合的な学習の時間の指導法」や「特別支援教育の基礎」などの教職専門科目と,「ダイバーシティと教育」や「現代社会と子どもの権利」などのフラッグシップ指定科目を体系的に編成する。

●ICT や教育データを利活用する力を育成するため,「ICT 活用の理論と方法」などの教職専門科目と,「教育データの活用Ⅰ」などのフラッグシップ指定科目を体系的に編成する。

●教職力量を自らひらく力を育成するため，学校インターンシップ科目,「教育実習」や「教職実践演習」などの教職専門科目と,「教職のための省察入門」などのフラッグシップ指定科目を体系的に編成する。

●各授業は，講義・演習・実験・実習などの方法により展開する。

●成績評価は，全学共通の評価基準を明示の上，プレゼンテーション，レポート，試験など，多様な方法により行うものとするとともに，どのように成績に反映されるか，シラバスに明記する。

●指導技術を向上させるための研修や教員同士での授業参観などを定期的に開催し，授業改善に取り組む。

◆プログラムの履修要件（アドミッション・ポリシー）

●高等学校で履修した教科・科目における基礎学力を有している人

●教職に必要な知識や技能，小学校教科に関わる専門分野への関心があり，それらを学ぶための十分な学力と適性を有している人

●社会の多様性を理解し，多様な人々とコミュニケーションを図り，協働できる能力を身に付けようと思っている人

●子どもたちの成長に関わることへの関心があり，小学校等での教職に就くことを強く希望し，探究心を持って主体的に学ぶ態度を有している人

◆各回生の到達目標

履修回生	到達目標
1 回生	豊かな教養と広い視野を醸成する上で必要不可欠な基本的知識・技能を体系的に理解し，修得する。 教職の意義や教員の役割，職務内容及び教育を考えていく上で必要不可欠な基本的理念や思想を歴史的・体系的に理解し，教職への動機づけを図る。 児童の発達および学習の基礎的過程，いじめや不登校などの諸課題，障がいのある児童の理解と支援，教育測定と評価などについて理解する。 ダイバーシティ教育の基礎について学び，現代社会や学校教育における子どもの多様性について理解を深め，学校現場の観察経験から学び続ける教師のための素地を形成する。 小学校教諭として必要となる各教科に関する基礎的知識・技能を修得する。

２回生	人権の尊重，子どもの生活背景について理解し，学校の役割と経営についての基礎知識を修得するとともに学習指導や学級経営等における教師として必要な指導力の基礎を養う。 また，今日における生徒指導上の諸課題に関する理論的・実践的な認識を身につけるとともに，学校安全や危機管理についての基本的事項を理解する。 情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方並びに児童に情報活用能力を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。 ダイバーシティ教育を基盤とした４つの領域について，教科を横断した探究的な学び，教育データの活用方法，ファシリテーターとしての教師の役割及び学習者を中心とする授業づくりの基礎的な理論を学ぶ。また，学校現場での教育活動から自らの実践を振り返り，学び続ける教師となるための基礎的な資質・能力を育成する。 学習指導要領を踏まえ，教育課程編成の視点を学ぶとともに，小学校教諭に必要な基礎的知識・技能や方法を修得する。また，教材研究・開発の方法を修得するとともに，学習指導案を作成し，それに基づいて模擬授業を実施し，授業づくりの基本を身につける。 道徳教育の歴史および主要な道徳教育理論・方法について理解し，道徳教育に関する基礎的知識を修得する。 さらには，学校インターンシップによる現場観察・体験活動を通じて，教職実践に向けた基礎的知識・技能を修得する。
３回生	教師が行う子どもの指導と援助に関して，心理学の基礎的な理論や教育相談（カウンセリングを含む）などの技法，いじめや不登校など子どもの問題行動について理解する。 子ども理解と自治活動の指導を中心とした特別活動の視点と，総合的な学習の時間の指導法を理解する。 ダイバーシティ教育を基盤とした４つの領域について，教科を横断した探究的な学び，教育データの活用方法，ファシリテーターとしての教師の役割及び学習者を中心とする授業づくりの発展的な理論を学び，実践を行う。 また，実践的な模擬授業，指導案作成及び教材研究を通じて，更なる指導技術の向上を図り，教育実習の履修前に修得すべき知識・技能を修得する。 附属学校や協力校等での教育実習を行い，学校現場における経験を踏まえ，学修成果と今後の課題を再認識する。
４回生	教員になるために必要と考える専攻専門科目の履修を通じて，更なる深い専門的知識と技能を修得する。 ４年間の教職課程の集大成として教員として必要な知識・技能全体について，到達点と課題を確認し，課題克服に努める。

次世代教育（ICT 教育）プログラム
取得できる学位：学士（教育学）

◆プログラムの概要と人材養成のねらい

本プログラムでは，変化が激しく予測困難な時代に対応するための学習観・授業観の転換を担う教師，すなわち，学習者中心の学びを支えることができる教師の育成を担うべく，児童・生徒を理解する力や基礎的な指導力を身に付け，次世代を切り拓く子どもたちの様々な課題に対処でき，次世代の学校教育をけん引できる教員を養成します。

ICT リテラシー，データサイエンス，プログラミング，デジタル教材活用等に関する高度な専門的知識・技能を修得し，学校内の ICT 普及促進，ICT 活用による校務効率化や授業開発などの教育課題の発見・解決や，学習履歴等教育ビッグデータの活用による学校教育の質の向上について，リーダー的役割を担える教員の養成をめざします。

なお，卒業要件を満たすことにより取得できる教員免許状を，①高等学校教諭一種免許状（情報）及び小学校教諭一種免許状，②高等学校教諭一種免許状（情報），中学校教諭一種免許状（数学）及び高等学校教諭一種免許状（数学）とし，①②のいずれかを選択して履修します。

◆プログラムの到達目標（ディプロマ・ポリシー）

（１）豊かな教養と広い視野

・人文，社会，自然，芸術，スポーツ等の学術的・実践的な基本的知識とアカデミックライティングなどの初年次に必要な基本的スキルを学び，キャリア形成に向けた，ICT 活用能力，言語運用能力，コミュニケーション力，および論理的・批判的思考からなる汎用基礎力を身に付けている。

・世界の多様性を理解し，異文化・多文化を受容できる寛容な態度を身に付けている。

（２）教職に必要な素養

・教育の理念や教育に関する歴史及び思想，並びに教職の意義，教員の職務内容についての基礎的な理解ができている。

・教職員や校外の専門家，家庭や地域等を含めた他者と連携し，協働して課題を解決することの重要性を理解している。

・人権意識を有し，学校教育に関する社会的，制度的，経営的事項，学校安全に関する基礎的な知識や技能を身に付けている。

・児童・生徒を自律的な学習者として導くことの意義を理解している。

（３）指導内容の理解と実践力

・高等学校及び小学校の各教科又は中学校・高等学校の教科指導に必要な専門的知識・技能の基本を身に付けている。

・学校教育における教育課程編成の意義と基本原理を理解し，教職員の配置や施設の維持管理の観点や教科横断的な視点をもって組織的に教育課程を編成の上，実施するとともに，学校の実態に応じてカリキュラム・マネジメントを行うことの重要性を理解している。

・子どもの興味・関心を引き出す教材研究を行いながら，学習指導や授業の設計，実践，評価，改善を行う仕組みを構想することができる。

・学習環境の整備ができ，また，アクティブ・ラーニングを取り入れた「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた学習者を中心とする指導計画の立案や授業づくりができる。
（４）子どもへの対応の理解 ・生徒指導の意義や理論を理解し，他の教職員や専門家等と連携し，児童・生徒に応じた指導や集団指導を実践することができる。 ・教育相談の意義や理論と児童・生徒を支援するために必要となる基礎的知識を有し，組織的な取り組みや学外の専門家等と連携する重要性を理解している。 ・進路指導やキャリア教育の意義を理解し，これらの視点からの授業改善やカウンセリングの充実に必要となる基礎的な知識を身に付けている。 ・子どもの心身の発達と学習の過程についての基礎的な理解ができている。 ・外国にルーツのある子どもや障がいのある子どもなど，特別な配慮や支援を必要とする子どもの特性や社会的包摂の理念を理解したうえで，学校教員として対応するために必要となる知識や支援の方法を身に付けている。 ・道徳教育の理論及び指導法，特別活動の指導法及び総合的な学習や探究の時間の指導法について理解している。
（５）ICT や教育データを利活用する力 ・学校における ICT の活用の意義を理解し，授業や校務等に ICT を活用するとともに，児童・生徒の ICT 活用能力を育成するための授業を構想することができる。 ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けて，児童・生徒の学習の改善を図るため教育データを適切に活用することができる。
（６）教職力量を自らひらく力 ・実践的な教育活動に参画し，児童・生徒と積極的にコミュニケーションをとることができる。 ・自らの学修を記録などに基づいて省察し，目標達成に向けて成長しようとする意欲を身に付けている。 ・生涯にわたる教師の成長の特性と学習のあり方を理解の上，学び続ける教師としての姿勢や態度を身に付けている。

◆カリキュラム立案と実施方法についての方針（カリキュラム・ポリシー）

●豊かな教養と広い視野を身に付けるため，学術的な基本的知識の獲得とアカデミックライティングなどの大学生活を送る上で必要な資質・能力やキャリア形成に向けた語学運用能力，ICT 活用能力の育成などを盛り込む教養教育の質的充実を図る。 ●教職に必要な素養を身に付けるため，「小・中一貫教育概論」などの教職基礎科目，「教育総論」や「教職へのとびら」，「学校の役割と経営」，「学校安全」などの教職専門科目と，「ファシリテーターとしての教員Ⅰ」などのフラッグシップ指定科目を体系的に編成する。 ●指導内容の理解と実践力を育成するため，「学校における ICT 活用」，「インクルーシブ教育実践論」からなる専攻共通科目，情報（ICT リテラシー，データサイエンス，プログラミングなど）に関する専門的知識・技能を修得するコース専門科目と，「教育課程論（カリキュラム・マネジメントを含む。）」などの教職専門科目，並びに「教

科横断と探究学習Ⅰ」や「学習者中心の授業デザインⅠ」などのフラッグシップ指定科目を体系的に編成する。さらに①では，小学校の各教科に係る教科専門科目及び指導法科目を，②では，数学に関する専門科目を編成する。
●子どもへの対応の理解を深めるため，「発達と学習の心理学」，「生徒指導論」，「教育相談の理論と方法」，「道徳教育論」，「特別活動論」，「総合的な学習の時間の指導法」や「特別支援教育の基礎」などの教職専門科目と，「ダイバーシティと教育」や「現代社会と子どもの権利」などのフラッグシップ指定科目を体系的に編成する。
●ICT や教育データを利活用する力を育成するため，「ICT 活用の理論と方法」などの教職専門科目と，「教育データの活用Ⅰ」などのフラッグシップ指定科目を体系的に編成する。
●教職力量を自らひらく力を育成するため，学校インターンシップ科目，「教育実習」や「教職実践演習」などの教職専門科目と，「教職のための省察入門」などのフラッグシップ指定科目を体系的に編成する。
●各授業は，講義・演習・実験・実習などの方法により展開する。
●成績評価は，全学共通の評価基準を明示の上，プレゼンテーション，レポート，試験など，多様な方法により行うものとするとともに，どのように成績に反映されるか，シラバスに明記する。
●指導技術を向上させるための研修や教員同士での授業参観などを定期的に開催し，授業改善に取り組む。

◆プログラムの履修要件（アドミッション・ポリシー）

●高等学校で履修した教科・科目における基礎学力を有している人
●教職に必要な知識や技能，教科に関わる専門分野への関心があり，それらを学ぶための十分な学力と適性を有している人
●社会の多様性を理解し，多様な人々とコミュニケーションを図り，協働できる能力を身に付けようと思っている人
●子どもたちの成長に関わることへの関心があり，教職に就くことを強く希望し，探究心を持って主体的に学ぶ態度を有している人

◆各回生の到達目標（ICT 教育コース①）

履修回生	到達目標
1 回生	豊かな教養と広い視野を醸成する上で必要不可欠な基本的知識・技能を体系的に理解し，修得する。 教職の意義や教員の役割，職務内容及び教育を考えていく上で必要不可欠な基本的理念や思想を歴史的・体系的に理解し，教職への動機づけを図る。 児童・生徒の発達および学習の基礎的過程，いじめや不登校などの諸課題，障がいのある児童の理解と支援，教育測定と評価などについて理解する。 ダイバーシティ教育の基礎について学び，現代社会や学校教育における子どもの多様性について理解を深め，学校現場の観察経験から学び続ける

	教師のための素地を形成する。 　教育現場でのICT活用や情報科学の入門にあたる知識・技能を修得する。 　小学校教諭として必要となる各教科に関する基礎的知識・技能を修得する。
２回生	人権の尊重，子どもの生活背景について理解し，学校の役割と経営についての基礎知識を修得するとともに学習指導や学級経営等における教師として必要な指導力の基礎を養う。 　また，今日における生徒指導上の諸課題に関する理論的・実践的な認識を身に付けるとともに，学校安全や危機管理についての基本的事項を理解する。 　情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方並びに児童及び生徒に情報活用能力を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。 　ダイバーシティ教育を基盤とした４つの領域について，教科を横断した探究的な学び，教育データの活用方法，ファシリテーターとしての教師の役割及び学習者を中心とする授業づくりの基礎的な理論を学ぶ。また，学校現場での教育活動から自らの実践を振り返り，学び続ける教師となるための基礎的な資質・能力を育成する。 　学習指導要領を踏まえ，教育課程編成の視点を学ぶとともに，小学校教諭及び情報科教諭に必要な基礎的知識・技能や方法を修得する。また，教材研究・開発の方法を習得するとともに，学習指導案を作成し，それに基づいて模擬授業を実施し，授業づくりの基本を身に付ける。 　道徳教育の歴史および主要な道徳教育理論・方法について理解し，道徳教育に関する基礎的知識を修得する。 　さらには，学校インターンシップによる現場観察・体験活動を通じて，教職実践に向けた基礎的知識・技能を修得する。
３回生	教師が行う子どもの指導と援助に関して，心理学の基礎的な理論や教育相談（カウンセリングを含む）などの技法，いじめや不登校など子どもの問題行動について理解する。 　子ども理解と自治活動の指導を中心とした特別活動の視点と，総合的な学習の時間の指導法を理解する。 　ダイバーシティ教育を基盤とした４つの領域について，教科を横断した探究的な学び，教育データの活用方法，ファシリテーターとしての教師の役割及び学習者を中心とする授業づくりの発展的な理論を学び，実践を行う。 　また，実践的な模擬授業，指導案作成及び教材研究を通じて，更なる指導技術の向上を図り，教育実習の履修前に修得すべき知識・技能を修得する。 　附属学校や協力校等での教育実習を行い，学校現場における経験を踏まえ，学修成果と今後の課題を再認識する。
４回生	教員になるために必要と考える専攻専門科目の履修を通じて，更なる深い専門的知識と技能を修得する。 　４年間の教職課程の集大成として教員として必要な知識・技能全体につ

	いて，到達点と課題を確認し，課題克服に努める。

◆各回生の到達目標（ICT 教育コース②）

履修回生	到達目標
１回生	豊かな教養と広い視野を醸成する上で必要不可欠な基本的知識・技能を体系的に理解し，修得する。 教職の意義や教員の役割，職務内容及び教育を考えていく上で必要不可欠な基本的理念や思想を歴史的・体系的に理解し，教職への動機づけを図る。 生徒の発達および学習の基礎的過程，いじめや不登校などの諸課題，障がいのある児童の理解と支援，教育測定と評価などについて理解する。 ダイバーシティ教育の基礎について学び，現代社会や学校教育における子どもの多様性について理解を深め，学校現場の観察経験から学び続ける教師のための素地を形成する。 教育現場での ICT 活用や情報科学の入門にあたる知識・技能を修得する。
２回生	人権の尊重，子どもの生活背景について理解し，学校の役割と経営についての基礎知識を修得するとともに学習指導や学級経営等における教師として必要な指導力の基礎を養う。 また，今日における生徒指導上の諸課題に関する理論的・実践的な認識を身に付けるとともに，学校安全や危機管理についての基本的事項を理解する。 情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方並びに児童及び生徒に情報活用能力を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。 ダイバーシティ教育を基盤とした４つの領域について，教科を横断した探究的な学び，教育データの活用方法，ファシリテーターとしての教師の役割及び学習者を中心とする授業づくりの基礎的な理論を学ぶ。また，学校現場での教育活動から自らの実践を振り返り，学び続ける教師となるための基礎的な資質・能力を育成する。 学習指導要領を踏まえ，教育課程編成の視点を学ぶとともに，数学科教諭及び情報科教諭に必要な基礎的知識・技能や方法を修得する。また，教材研究・開発の方法を習得するとともに，学習指導案を作成し，それに基づいて模擬授業を実施し，授業づくりの基本を身に付ける。 道徳教育の歴史および主要な道徳教育理論・方法について理解し，道徳教育に関する基礎的知識を修得する。 さらには，学校インターンシップによる現場観察・体験活動を通じて，教職実践に向けた基礎的知識・技能を修得する。
３回生	教師が行う子どもの指導と援助に関して，心理学の基礎的な理論や教育相談（カウンセリングを含む）などの技法，いじめや不登校など子どもの問題行動について理解する。 子ども理解と自治活動の指導を中心とした特別活動の視点と，総合的な

	学習の時間の指導法を理解する。 　ダイバーシティ教育を基盤とした４つの領域について，教科を横断した探究的な学び，教育データの活用方法，ファシリテーターとしての教師の役割及び学習者を中心とする授業づくりの発展的な理論を学び，実践を行う。 　また，実践的な模擬授業，指導案作成及び教材研究を通じて，更なる指導技術の向上を図り，教育実習の履修前に修得すべき知識・技能を修得する。 　附属学校や協力校等での教育実習を行い，学校現場における経験を踏まえ，学修成果と今後の課題を再認識する。
４回生	教員になるために必要と考える専攻専門科目の履修を通じて，更なる深い専門的知識と技能を修得する。 　４年間の教職課程の集大成として教員として必要な知識・技能全体について，到達点と課題を確認し，課題克服に努める。

教科教育プログラム
取得できる学位：学士（教育学）

◆プログラムの概要と人材養成のねらい

本プログラムでは，小・中・高等学校の各教科指導に必要となる知識・技能を修得し，児童・生徒を自律的な学習者へと導くことを目的として，児童・生徒の主体的な学びを支援するとともに，主体的・対話的で深い学びの充実に向けた授業改善に取り組みながら，学校教育の質の向上に寄与することができる教科指導力のある教員を養成します。

そのために，ICT を活用した学習指導方法，アクティブ・ラーニングを取り入れた指導計画の立案や授業づくりができる能力，各教科の専門性を踏まえ，子どもの実態に応じた教材研究を行いながら，主体的な学びを支援する学習指導を構想することができる能力，小学校の教科担任制を見通した教科指導ができる能力を養います。コースには，国語教育，英語教育，社会科教育，数学教育，理科教育，技術教育，家政教育，保健体育，音楽教育，美術・書道教育があります。

◆プログラムの到達目標（ディプロマ・ポリシー）

（１）豊かな教養と広い視野

・人文，社会，自然，芸術，スポーツ等の学術的・実践的な基本的知識とアカデミックライティングなどの初年次に必要な基本的スキルを学び，キャリア形成に向けた，ICT 活用能力，言語運用能力，コミュニケーション力，および論理的・批判的思考からなる汎用基礎力を身に付けている。

・世界の多様性を理解し，異文化・多文化を受容できる寛容な態度を身に付けている。

（２）教職に必要な素養

・教育の理念や教育に関する歴史及び思想，並びに教職の意義，教員の職務内容についての基礎的な理解ができている。

・教職員や校外の専門家，家庭や地域等を含めた他者と連携し，協働して課題を解決することの重要性を理解している。

・人権意識を有し，学校教育に関する社会的，制度的，経営的事項，学校安全に関する基礎的な知識や技能を身に付けている。

・児童・生徒を自律的な学習者として導くことの意義を理解している。

（３）指導内容の理解と実践力

・小学校の各教科及び所属するコースに対応する中学校・高等学校の教科指導に必要な専門的知識・技能の基本を身に付けている。

・学校教育における教育課程編成の意義と基本原理を理解し，教職員の配置や施設の維持管理の観点や教科横断的な視点をもって組織的に教育課程を編成の上，実施するとともに，学校の実態に応じてカリキュラム・マネジメントを行うことの重要性を理解している。

・子どもの興味・関心を引き出す教材研究を行いながら，学習指導や授業の設計，実践，評価，改善を行う仕組みを構想することができる。

・学習環境の整備ができ，また，アクティブ・ラーニングを取り入れた「個別最適な学

び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた学習者を中心とする指導計画の立案や授業づくりができる。

（４）子どもへの対応の理解
・生徒指導の意義や理論を理解し，他の教職員や専門家等と連携し，児童・生徒に応じた指導や集団指導を実践することができる。
・教育相談の意義や理論と児童・生徒を支援するために必要となる基礎的知識を有し，組織的な取り組みや学外の専門家等と連携する重要性を理解している。
・進路指導やキャリア教育の意義を理解し，これらの視点からの授業改善やカウンセリングの充実に必要となる基礎的な知識を身に付けている。
・子どもの心身の発達と学習の過程についての基礎的な理解ができている。
・外国にルーツのある子どもや障がいのある子どもなど，特別な配慮や支援を必要とする子どもの特性や社会的包摂の理念を理解したうえで，学校教員として対応するために必要となる知識や支援の方法を身に付けている。
・道徳教育の理論及び指導法，特別活動の指導法及び総合的な学習や探究の時間の指導法について理解している。

（５）ICT や教育データを利活用する力
・学校における ICT の活用の意義を理解し，授業や校務等に ICT を活用するとともに，児童・生徒の ICT 活用能力を育成するための授業を構想することができる。
・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けて，児童・生徒の学習の改善を図るため教育データを適切に活用することができる。

（６）教職力量を自らひらく力
・実践的な教育活動に参画し，児童・生徒と積極的にコミュニケーションをとることができる。
・自らの学修を記録などに基づいて省察し，目標達成に向けて成長しようとする意欲を身に付けている。
・生涯にわたる教師の成長の特性と学習のあり方を理解の上，学び続ける教師としての姿勢や態度を身に付けている。

◆カリキュラム立案と実施方法についての方針（カリキュラム・ポリシー）

●豊かな教養と広い視野を身に付けるため，学術的な基本的知識の獲得とアカデミックライティングなどの大学生活を送る上で必要な資質・能力やキャリア形成に向けた語学運用能力，ICT 活用能力の育成などを盛り込む教養教育の質的充実を図る。
●教職に必要な素養を身に付けるため，「小・中一貫教育概論」などの教職基礎科目，「教育総論」や「教職へのとびら」，「学校の役割と経営」，「学校安全」などの教職専門科目と，「ファシリテーターとしての教員Ⅰ」などのフラッグシップ指定科目を体系的に編成する。
●指導内容の理解と実践力を育成するため，各教科に関する専門的知識・技能を修得するコース専門科目と，「教育課程論（カリキュラム・マネジメントを含む。）」などの教職専門科目，並びに「教科横断と探究学習Ⅰ」や「学習者中心の授業デザインⅠ」などのフラッグシップ指定科目を体系的に編成する。
●子どもへの対応の理解を深めるため，「発達と学習の心理学」，「生徒指導論」，「教育

相談の理論と方法」,「道徳教育論」,「特別活動論」,「総合的な学習の時間の指導法」や「特別支援教育の基礎」などの教職専門科目と,「ダイバーシティと教育」や「現代社会と子どもの権利」などのフラッグシップ指定科目を体系的に編成する。
●ICT や教育データを利活用する力を育成するため,「ICT 活用の理論と方法」などの教職専門科目と,「教育データの活用Ⅰ」などのフラッグシップ指定科目を体系的に編成する。
●教職力量を自らひらく力を育成するため，学校インターンシップ科目,「教育実習」や「教職実践演習」などの教職専門科目と,「教職のための省察入門」などのフラッグシップ指定科目を体系的に編成する。
●各授業は，講義・演習・実験・実習などの方法により展開する。
●成績評価は，全学共通の評価基準を明示の上，プレゼンテーション，レポート，試験など，多様な方法により行うものとするとともに，どのように成績に反映されるか，シラバスに明記する。
●指導技術を向上させるための研修や教員同士での授業参観などを定期的に開催し，授業改善に取り組む。

◆プログラムの履修要件（アドミッション・ポリシー）

●高等学校で履修した教科・科目における基礎学力を有している人
●教職に必要な知識や技能，教科に関わる専門分野への関心があり，それらを学ぶための十分な学力と適性を有している人
●社会の多様性を理解し，多様な人々とコミュニケーションを図り，協働できる能力を身に付けようと思っている人
●子どもたちの成長に関わることへの関心があり，教職に就くことを強く希望し，探究心を持って主体的に学ぶ態度を有している人

◆各回生の到達目標

履修回生	到達目標
1 回生	豊かな教養と広い視野を醸成する上で必要不可欠な基本的知識・技能を体系的に理解し，修得する。 教職の意義や教員の役割，職務内容及び教育を考えていく上で必要不可欠な基本的理念や思想を歴史的・体系的に理解し，教職への動機づけを図る。 児童･生徒の発達および学習の基礎的過程，いじめや不登校などの諸課題，障がいのある児童の理解と支援，教育測定と評価などについて理解する。 ダイバーシティ教育の基礎について学び，現代社会や学校教育における子どもの多様性について理解を深め，学校現場の観察経験から学び続ける教師のための素地を形成する。 小学校教諭及び中学校教諭として必要となる各教科に関する基礎的知識・技能を修得する。

２回生	人権の尊重，子どもの生活背景について理解し，学校の役割と経営についての基礎知識を修得するとともに学習指導や学級経営等における教師として必要な指導力の基礎を養う。 また，今日における生徒指導上の諸課題に関する理論的・実践的な認識を身に付けるとともに，学校安全や危機管理についての基本的事項を理解する。 情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方並びに児童及び生徒に情報活用能力を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。 ダイバーシティ教育を基盤とした４つの領域について，教科を横断した探究的な学び，教育データの活用方法，ファシリテーターとしての教師の役割及び学習者を中心とする授業づくりの基礎的な理論を学ぶ。また，学校現場での教育活動から自らの実践を振り返り，学び続ける教師となるための基礎的な資質・能力を育成する。 学習指導要領を踏まえ，教育課程編成の視点を学ぶとともに，小学校教諭及び中学校教諭に必要な基礎的知識・技能や方法を修得する。また，教材研究・開発の方法を習得するとともに，学習指導案を作成し，それに基づいて模擬授業を実施し，授業づくりの基本を身に付ける。 さらには，学校インターンシップによる現場観察・体験活動を通じて，教職実践に向けた基礎的知識・技能を修得する。
３回生	道徳教育の歴史および主要な道徳教育理論・方法について理解し，道徳教育に関する基礎的知識を修得する。 教師が行う子どもの指導と援助に関して，心理学の基礎的な理論や教育相談（カウンセリングを含む）などの技法，いじめや不登校など子どもの問題行動について理解する。 子ども理解と自治活動の指導を中心とした特別活動の視点と，総合的な学習の時間の指導法を理解する。 ダイバーシティ教育を基盤とした４つの領域について，教科を横断した探究的な学び，教育データの活用方法，ファシリテーターとしての教師の役割及び学習者を中心とする授業づくりの発展的な理論を学び，実践を行う。 また，小・中学校教諭として必要となる教科に関する高度な専門的知識・技能を修得し，実践的な模擬授業，指導案作成及び教材研究を通じて，更なる指導技術の向上を図り，教育実習の履修前に修得すべき知識・技能を修得する。 附属学校や協力校等での教育実習を行い，学校現場における経験を踏まえ，学修成果と今後の課題を再認識する。
４回生	教員になるために必要と考える専攻専門科目の履修を通じて，更なる深い専門的知識と技能を修得する。 ４年間の教職課程の集大成として教員として必要な知識・技能全体について，到達点と課題を確認し，課題克服に努める。

特別支援教育プログラム
取得できる学位：学士（教育学）

◆プログラムの概要と人材養成のねらい

本プログラムでは，特別支援学校及び通常の学校における特別支援教育の各領域を指導するために必要な知識・技能と児童・生徒を自律的な学習者として導く視点を有し，子どもの多様性の理解のもと，児童・生徒一人一人の学びに寄り添い，学習者に応じた学習指導を行うとともに，インクルーシブ教育の理念と環境整備の必要性を理解して，障がいのある子どもと障がいのない子どもがともに学ぶ教育を担うことのできる教員を養成します。

学生は２年次以降，視覚障がい，聴覚障がい，知的障がい，肢体不自由，病弱，発達障がいの６つの障がい種のいずれかのコースに所属して，それぞれの専門領域に関する授業や学校インターンシップ科目を受講し専門性を深めるとともに，インクルーシブ教育の理念と特別支援教育全般にわたる幅広い知識・技能を身に付けます。

◆プログラムの到達目標（ディプロマ・ポリシー）

（１）豊かな教養と広い視野

・人文，社会，自然，芸術，スポーツ等の学術的・実践的な基本的知識とアカデミックライティングなどの初年次に必要な基本的スキルを学び，キャリア形成に向けた，ICT 活用能力，言語運用能力，コミュニケーション力，および論理的・批判的思考からなる汎用基礎力を身に付けている。

・世界の多様性を理解し，異文化・多文化を受容できる寛容な態度を身に付けている。

（２）教職に必要な素養

・教育の理念や教育に関する歴史及び思想，並びに教職の意義，教員の職務内容についての基礎的な理解ができている。

・教職員や校外の専門家，家庭や地域等を含めた他者と連携し，協働して課題を解決することの重要性を理解している。

・人権意識を有し，学校教育に関する社会的，制度的，経営的事項，学校安全に関する基礎的な知識や技能を身に付けている。

・児童・生徒を自律的な学習者として導くことの意義を理解している。

（３）指導内容の理解と実践力

・小学校の各教科及び特別支援教育の各領域を指導するために必要な専門的知識・技能の基本を身に付けている。

・学校教育における教育課程編成の意義と基本原理を理解し，教職員の配置や施設の維持管理の観点や教科横断的な視点をもって組織的に教育課程を編成の上，実施するとともに，学校の実態に応じてカリキュラム・マネジメントを行うことの重要性を理解している。

・子どもの興味・関心を引き出す教材研究を行いながら，学習指導や授業の設計，実践，評価，改善を行う仕組みを構想することができる。

・学習環境の整備ができ，また，アクティブ・ラーニングを取り入れた「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた学習者を中心とする指導計画の立案

や授業づくりができる。
（４）子どもへの対応の理解 ・生徒指導の意義や理論を理解し，他の教職員や専門家等と連携し，児童・生徒に応じた指導や集団指導を実践することができる。 ・教育相談の意義や理論と児童・生徒を支援するために必要となる基礎的知識を有し，組織的な取り組みや学外の専門家等と連携する重要性を理解している。 ・進路指導やキャリア教育の意義を理解し，これらの視点からの授業改善やカウンセリングの充実に必要となる基礎的な知識を身に付けている。 ・子どもの心身の発達と学習の過程についての基礎的な理解ができている。 ・外国にルーツのある子どもや障がいのある子どもなど，特別な配慮や支援を必要とする子どもの特性や社会的包摂の理念を理解したうえで，学校教員として対応するために必要となる知識や支援の方法を身に付けている。 ・道徳教育の理論及び指導法，特別活動の指導法及び総合的な学習や探究の時間の指導法について理解している。
（５）ICT や教育データを利活用する力 ・学校における ICT の活用の意義を理解し，授業や校務等に ICT を活用するとともに，児童・生徒の ICT 活用能力を育成するための授業を構想することができる。 ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けて，児童・生徒の学習の改善を図るため教育データを適切に活用することができる。
（６）教職力量を自らひらく力 ・実践的な教育活動に参画し，児童・生徒と積極的にコミュニケーションをとることができる。 ・自らの学修を記録などに基づいて省察し，目標達成に向けて成長しようとする意欲を身に付けている。 ・生涯にわたる教師の成長の特性と学習のあり方を理解の上，学び続ける教師としての姿勢や態度を身に付けている。

◆カリキュラム立案と実施方法についての方針（カリキュラム・ポリシー）

●豊かな教養と広い視野を身に付けるため，学術的な基本的知識の獲得とアカデミックライティングなどの大学生活を送る上で必要な資質・能力やキャリア形成に向けた語学運用能力，ICT 活用能力の育成などを盛り込む教養教育の質的充実を図る。 ●教職に必要な素養を身に付けるため，「人権教育の基礎」などの教職基礎科目，「教育総論」や「教職へのとびら」，「学校の役割と経営」，「学校安全」などの教職専門科目と，「ファシリテーターとしての教員Ⅰ」などのフラッグシップ指定科目を体系的に編成する。 ●指導内容の理解と実践力を育成するため，特別支援教育の高度な理解に資する特別支援教育専門科目と，「教育課程論（カリキュラム・マネジメントを含む。）」などの教職専門科目，並びに「教科横断と探究学習Ⅰ」や「学習者中心の授業デザインⅠ」などのフラッグシップ指定科目を体系的に編成する。 ●子どもへの対応の理解を深めるため，「発達と学習の心理学」，「生徒指導論」，「教育相談の理論と方法」，「道徳教育論」，「特別活動論」，「総合的な学習の時間の指導法」

や「特別支援教育の基礎」などの教職専門科目と，「ダイバーシティと教育」や「現代社会と子どもの権利」などのフラッグシップ指定科目を体系的に編成する。
●ICT や教育データを利活用する力を育成するため，「ICT 活用の理論と方法」などの教職専門科目と，「教育データの活用Ⅰ」などのフラッグシップ指定科目を体系的に編成する。
●教職力量を自らひらく力を育成するため，学校インターンシップ科目，「教育実習」や「教職実践演習」などの教職専門科目と，「教職のための省察入門」などのフラッグシップ指定科目を体系的に編成する。
●各授業は，講義・演習・実験・実習などの方法により展開する。
●成績評価は，全学共通の評価基準を明示の上，プレゼンテーション，レポート，試験など，多様な方法により行うものとするとともに，どのように成績に反映されるか，シラバスに明記する。
●指導技術を向上させるための研修や教員同士での授業参観などを定期的に開催し，授業改善に取り組む。

◆プログラムの履修要件（アドミッション・ポリシー）

●高等学校で履修した教科・科目における基礎学力を有している人
●教職に必要な知識や技能，特別支援教育に関わる専門分野への関心があり，それらを学ぶための十分な学力と適性を有している人
●社会の多様性を理解し，多様な人々とコミュニケーションを図り，協働できる能力を身に付けようと思っている人
●子どもたちの，成長に関わることへの関心があり，特別支援教育に携わる教職に就くことを強く希望し，探究心を持って主体的に学ぶ態度を有している人

◆各回生の到達目標

履修回生	到達目標
１回生	豊かな教養と広い視野を醸成する上で必要不可欠な基本的知識・技能を体系的に理解し，修得する。 教職の意義や教員の役割，職務内容及び教育を考えていく上で必要不可欠な基本的理念や思想を歴史的・体系的に理解し，教職への動機づけを図る。 児童・生徒の発達および学習の基礎的過程，いじめや不登校などの諸課題，障がいのある児童の理解と支援，教育測定と評価などについて理解する。 ダイバーシティ教育の基礎について学び，現代社会や学校教育における子どもの多様性について理解を深め，学校現場の観察経験から学び続ける教師のための素地を形成する。 特別支援学校教諭として必要となる特別支援教育に関する基礎的知識・技能を修得する。
２回生	人権の尊重，子どもの生活背景について理解し，学校の役割と経営についての基礎知識を修得するとともに学習指導や学級経営等における教師として必要な指導力の基礎を養う。 また，今日における生徒指導上の諸課題に関する理論的・実践的な認識を

	身に付けるとともに，学校安全や危機管理についての基本的事項を理解する。 情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方並びに児童及び生徒に情報活用能力を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。 ダイバーシティ教育を基盤とした４つの領域について，教科を横断した探究的な学び，教育データの活用方法，ファシリテーターとしての教師の役割及び学習者を中心とする授業づくりの基礎的な理論を学ぶ。また，学校現場での教育活動から自らの実践を振り返り，学び続ける教師となるための基礎的な資質・能力を育成する。 学習指導要領を踏まえ，教育課程編成の視点を学ぶとともに，特別支援学校教諭に必要な視覚障がい，聴覚障がい，知的障がい，肢体不自由，病弱の５領域と重複・ＬＤ等の内容に係る心理・生理・病理及び教育課程・指導法の技能や方法，通常の学校のユニバーサルデザインの授業等に対する基礎的知識・技能を身につける。また，教材研究・開発の方法を習得するとともに，学習指導案を作成し，それに基づいて模擬授業を実施し，授業づくりの基本を身に付ける。 道徳教育の歴史および主要な道徳教育理論・方法について理解し，道徳教育に関する基礎的知識を修得する。 さらには，学校インターンシップによる現場観察・体験活動を通じて，教職実践に向けた基礎的知識・技能を修得する。
３回生	教師が行う子どもの指導と援助に関して，心理学の基礎的な理論や教育相談（カウンセリングを含む）などの技法，いじめや不登校など子どもの問題行動について理解する。 子ども理解と自治活動の指導を中心とした特別活動の視点と，総合的な学習の時間の指導法を理解する。 ダイバーシティ教育を基盤とした４つの領域について，教科を横断した探究的な学び，教育データの活用方法，ファシリテーターとしての教師の役割及び学習者を中心とする授業づくりの発展的な理論を学び，実践を行う。 また，特別支援学校教諭として必要となる視覚障がい，聴覚障がい，知的障がい，肢体不自由，病弱の５領域と重複・ＬＤ等の内容に係る心理・生理・病理及び教育課程・指導法の知識や技能及び方法に対する理解を深め，実践的な模擬授業，指導案作成及び教材研究を通じて，更なる指導技術の向上を図り，教育実習の履修前に修得すべき知識・技能を修得する。 附属学校や協力校等での教育実習を行い，学校現場における経験を踏まえ，学修成果と今後の課題を再認識する。
４回生	教員になるために必要と考える専攻専門科目の履修を通じて，更なる深い専門的知識と技能を修得する。 ４年間の教職課程の集大成として教員として必要な知識・技能全体について，到達点と課題を確認し，課題克服に努める。

小学校教育（夜間）５年プログラム
取得できる学位：学士（教育学）

◆プログラムの概要と人材養成のねらい

本プログラムでは，昼間の勤労経験や教育現場でのインターンシップ活動など豊富な経験をもとに，豊かな人間性と社会性や優れた実践的能力を備え，かつ，小学校の全教科にわたる教科指導に必要となる知識・技能を有し，児童を自律的な学習者として導くことを目的として，児童の主体的な学びを支援するとともに，主体的・対話的で深い学びの充実に向けた授業改善に取り組みながら，個々の多様な経験に基づく知識・技能を生かして学校教育の質の向上に寄与することができる個性豊かな教員を養成します。

◆プログラムの到達目標（ディプロマ・ポリシー）

（１）豊かな教養と広い視野

・人文，社会，自然，芸術，スポーツ等の学術的・実践的な基本的知識とアカデミックライティングなどの初年次に必要な基本的スキルを学び，キャリア形成に向けた，ICT 活用能力，言語運用能力，コミュニケーション力，および論理的・批判的思考からなる汎用基礎力を身に付けている。

・世界の多様性を理解し，異文化・多文化を受容できる寛容な態度を身に付けている。

（２）教職に必要な素養

・教育の理念や教育に関する歴史及び思想，並びに教職の意義，教員の職務内容についての基礎的な理解ができている。

・教職員や校外の専門家，家庭や地域等を含めた他者と連携し，協働して課題を解決することの重要性を理解している。

・人権意識を有し，学校教育に関する社会的，制度的，経営的事項，学校安全に関する基礎的な知識や技能を身に付けている。

・児童を自律的な学習者として導くことの意義を理解している。

（３）指導内容の理解と実践力

・小学校の各教科の指導に必要な専門的知識・技能の基本を身に付けている。

・学校教育における教育課程編成の意義と基本原理を理解し，教職員の配置や施設の維持管理の観点や教科横断的な視点をもって組織的に教育課程を編成の上，実施するとともに，学校の実態に応じてカリキュラム・マネジメントを行うことの重要性を理解している。

・子どもの興味・関心を引き出す教材研究を行いながら，学習指導や授業の設計，実践，評価，改善を行う仕組みを構想することができる。

・学習環境の整備ができ，また，アクティブ・ラーニングを取り入れた「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた学習者を中心とする指導計画の立案や授業づくりができる。

（４）子どもへの対応の理解

・生徒指導の意義や理論を理解し，他の教職員や専門家等と連携し，児童に応じた指導や集団指導を実践することができる。

・教育相談の意義や理論と児童を支援するために必要となる基礎的知識を有し，組織的

な取り組みや学外の専門家等と連携する重要性を理解している。 ・進路指導やキャリア教育の意義を理解し，これらの視点からの授業改善やカウンセリングの充実に必要となる基礎的な知識を身に付けている。 ・子どもの心身の発達と学習の過程についての基礎的な理解ができている。 ・外国にルーツのある子どもや障がいのある子どもなど，特別な配慮や支援を必要とする子どもの特性や社会的包摂の理念を理解したうえで，学校教員として対応するために必要となる知識や支援の方法を身に付けている。 ・道徳教育の理論及び指導法，特別活動の指導法及び総合的な学習や探究の時間の指導法について理解している。
（５）ICT や教育データを利活用する力 ・学校における ICT の活用の意義を理解し，授業や校務等に ICT を活用するとともに，児童の ICT 活用能力を育成するための授業を構想することができる。 ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けて，児童の学習の改善を図るため教育データを適切に活用することができる。
（６）教職力量を自らひらく力 ・実践的な教育活動に参画し，児童と積極的にコミュニケーションをとることができる。 ・自らの学修を記録などに基づいて省察し，目標達成に向けて成長しようとする意欲を身に付けている。 ・生涯にわたる教師の成長の特性と学習のあり方を理解の上，学び続ける教師としての姿勢や態度を身に付けている。

◆カリキュラム立案と実施方法についての方針（カリキュラム・ポリシー）

●豊かな教養と広い視野を身に付けるため，学術的な基本的知識の獲得とアカデミックライティングなどの大学生活を送る上で必要な資質・能力やキャリア形成に向けた語学運用能力，ICT 活用能力の育成などを盛り込む教養教育の質的充実を図る。 ●教職に必要な素養を身に付けるため，「保育と子ども」などの教職基礎科目，「教育総論」や「教職へのとびら」，「学校の役割と経営」，「学校安全ａ・ｂ」などの教職専門科目と，「ファシリテーターとしての教員Ⅰ」などのフラッグシップ指定科目を体系的に編成する。 ●指導内容の理解と実践力を育成するため，小学校の各教科に係る教科専門科目及び指導法科目，教職や教育実践，教科教育からなる系列専門科目などの科目と，「教育課程論（カリキュラム・マネジメントを含む。）」などの教職専門科目，並びに「教科横断と探究学習Ⅰ」や「学習者中心の授業デザインⅠ」などのフラッグシップ指定科目を体系的に編成する。 ●子どもへの対応の理解を深めるため，「発達と学習の心理学ａ・ｂ」，「生徒指導論」，「教育相談の理論と方法」，「道徳教育論ａ・ｂ」，「特別活動論」，「総合的な学習の時間の指導法」や「特別支援教育の基礎」などの教職専門科目と，「ダイバーシティと教育」や「現代社会と子どもの権利」などのフラッグシップ指定科目を体系的に編成する。 ●ICT や教育データを利活用する力を育成するため，「ICT 活用の理論と方法」などの教職専門科目と，「教育データの活用Ⅰ」などのフラッグシップ指定科目を体系的に編

成する。
●教職力量を自らひらく力を育成するため，学校インターンシップ科目，「教育実習」や「教職実践演習」などの教職専門科目と，「教職のための省察入門」などのフラッグシップ指定科目を体系的に編成する。
●各授業は，講義・演習・実験・実習などの方法により展開する。
●成績評価は，全学共通の評価基準を明示の上，プレゼンテーション，レポート，試験など，多様な方法により行うものとするとともに，どのように成績に反映されるか，シラバスに明記する。
●指導技術を向上させるための研修や教員同士での授業参観などを定期的に開催し，授業改善に取り組む。

◆プログラムの履修要件（アドミッション・ポリシー）

●高等学校で履修した教科・科目における基礎学力を有している人
●教職に必要な知識や技能，教科に関わる専門分野への関心があり，それらを学ぶための十分な学力と適性を有している人
●社会の多様性を理解し，多様な人々とコミュニケーションを図り，協働できる能力を身に付けようと思っている人
●子どもたちの成長に関わることへの関心があり，小学校で教職に就くことを強く希望し，探究心を持って主体的に学ぶ態度を有している人

◆各回生の到達目標

履修回生	到達目標
１回生	豊かな教養と広い視野を醸成する上で必要不可欠な基本的知識・技能を体系的に理解し，修得する。 教職の意義や教員の役割，職務内容について学び，教職への動機づけを図る。 ダイバーシティ教育の基礎について学び，現代社会や学校教育における子どもの多様性について理解を深め，学校現場の観察経験から学び続ける教師のための素地を形成する。 小学校教諭として必要となる各教科に関する基礎的知識・技能を修得する。
２回生	教育を考えていく上で必要不可欠な基本的理念や思想を歴史的・体系的に理解する。 ダイバーシティ教育を基盤とした４つの領域について，教科を横断した探究的な学び，教育データの活用方法，ファシリテーターとしての教師の役割及び学習者を中心とする授業づくりの基礎的な理論を学ぶ。また，学校現場での教育活動から自らの実践を振り返り，学び続ける教師となるための基礎的な資質・能力を育成する。 小学校教諭に必要な基礎的知識･技能や方法を修得する。また，教材研究･開発の方法を習得するとともに，学習指導案を作成し，それに基づいて模擬授業を実施し，授業づくりの基本を身に付ける。

	学校インターンシップによる現場観察・体験活動を通じて，教職実践に向けた基礎的知識・技能を修得する。
３回生	人権の尊重，子どもの生活背景について理解し，学校の役割と経営についての基礎知識を修得するとともに学習指導や学級経営等における教師として必要な指導力の基礎を養う。 児童の発達および学習の基礎的過程，いじめや不登校などの諸課題，障がいのある児童の理解と支援，教育測定と評価などについて理解する。 教員が行う子どもの指導と援助に関して，心理学の基礎的な理論や教育相談（カウンセリングを含む）などの技法，いじめや不登校など子どもの問題行動について理解する。 また，今日における生徒指導上の諸課題に関する理論的・実践的な認識を身に付ける。 情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方並びに児童に情報活用能力を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。 教材開発の方法を習得するとともに，学習指導案を作成し，それに基づいて模擬授業を実施し，授業づくりの基本を身に付ける。
４回生	道徳教育の歴史および主要な道徳教育理論・方法について理解し，道徳教育に関する基礎的知識を修得する。 学習指導要領を踏まえ，教育課程編成の視点を学ぶとともに，今日の授業づくりの方法と技術を身に付ける。 子ども理解と自治活動の指導を中心とした特別活動の視点と，総合的な学習の時間の指導法を理解する。 学校安全や危機管理についての基本的事項を理解する。 また，実践的な模擬授業，指導案作成及び教材研究を通じて，更なる指導技術の向上を図り，教育実習の履修前に修得すべき知識・技能を修得する。 附属学校や協力校等での教育実習を行い，学校現場における経験を踏まえ，学修成果と今後の課題を再認識する。
５回生	教員になるために必要と考える専攻専門科目の履修を通じて，更なる深い専門的知識と技能を修得する。 これまでの科目を修得した上で協力校等での教育実習を行い，学校現場における経験を踏まえ，学修成果と今後の課題を再認識する。 ５年間の教職課程の集大成として教員として必要な知識・技能全体について，到達点と課題を確認し，課題克服に努める。

養護教諭養成課程

養護教育プログラム
取得できる学位：学士（教育学）

◆プログラムの概要と人材養成のねらい

養護教育プログラムでは，教育学の基礎の上に，医学・看護学・養護学など，幅広い専門分野の基礎知識と実践能力を備え，健康を保持増進する能力を子どもたちが獲得できるように，様々な機会を捉え支援する資質を備えた養護教諭を養成します。そのため，幅広い教養教育の基礎の上に立って，各専門分野の学習を深めるとともに，臨床（病院）実習，養護実習などをとおして実践能力の向上をめざします。さらに，学校安全や危機対応についての知識や能力を養います。

◆プログラムの到達目標（ディプロマ・ポリシー）

（１）豊かな教養と広い視野

・人文，社会，自然，芸術，スポーツ等の学術的・実践的な基本的知識とアカデミックライティングなどの初年次に必要な基本的スキルを学び，キャリア形成に向けた，ICT 活用能力，言語運用能力，コミュニケーション力，および論理的・批判的思考からなる汎用基礎力を身に付けている。

・世界の多様性を理解し，異文化・多文化を受容できる寛容な態度を身に付けている。

（２）教職に必要な素養

・教育の理念や教育に関する歴史及び思想，並びに教職の意義，教員の職務内容についての基礎的な理解ができている。

・教職員や校外の専門家，家庭や地域等を含めた他者と連携し，協働して課題を解決することの重要性を理解している。

・人権意識を有し，学校教育に関する社会的，制度的，経営的事項，学校安全に関する基礎的な知識や技能を身に付けている。

・幼児・児童・生徒を自律的な学習者として導くことの意義を理解している。

（３）養護実践力

・養護の理念や思想，養護学，学校保健や学校安全に係る基礎理論・知識を学び，養護教諭の役割を明確に理解している。

・健康観察や健康診断の意義や方法，保健室の役割やその機能について理解している。

・子どもの心身の健康に関して，健康相談や救急処置に係る基礎的な知識・技能を身に付けている。

・学校における ICT の活用の意義を理解し，保健管理や保健教育等の実践や校務等に ICT を活用することができる。

（４）子どもへの対応の理解

・生徒指導の意義や理論を理解し，他の教職員や専門家等と連携し，児童・生徒に応じた指導や集団指導を実践することができる。

・教育相談の意義や理論と幼児・児童・生徒を支援するために必要となる基礎的知識を有し，組織的な取り組みや学外の専門家等と連携する重要性を理解している。

・子どもの心身の発達と学習の過程についての基礎的な理解ができている。

・外国にルーツのある子どもや障がいのある子どもなど，特別な配慮や支援を必要とする子どもの特性や社会的包摂の理念を理解したうえで，学校教員として対応するために必要となる知識や支援の方法を身に付けている。
・道徳教育の理論及び指導法，特別活動の指導法及び総合的な学習や探究の時間の指導法について理解している。

（５）教職力量を自らひらく力
・実践的な教育活動に参画し，幼児・児童・生徒と積極的にコミュニケーションをとることができる。
・自らの学修を記録などに基づいて省察し，目標達成に向けて成長しようとする意欲を身に付けている。
・生涯にわたる教師の成長の特性と学習のあり方を理解の上，学び続ける教師としての姿勢や態度を身に付けている。

◆カリキュラム立案と実施方法についての方針（カリキュラム・ポリシー）

●豊かな教養と広い視野を身に付けるため，学術的な基本的知識の獲得とアカデミックライティングなどの大学生活を送る上で必要な資質・能力やキャリア形成に向けた語学運用能力，ICT 活用能力の育成などを盛り込む教養教育の質的充実を図る。
●教職に必要な素養を身に付けるため，「人権教育の基礎」などの教職基礎科目，「教育総論」や「教職へのとびら」，「学校の役割と経営」，「学校安全」などの教職専門科目を体系的に編成する。
●養護実践力を育成するため，「学校保健」，「養護学」や「救急処置」，「健康相談活動の理論と方法」などの養護教育専門科目を ICT 活用の実践を盛り込みながら体系的に編成する。
●子どもへの対応の理解を深めるため，「発達と学習の心理学」，「生徒指導論」，「教育相談の理論と方法」，「道徳教育論」，「特別活動論」，「総合的な学習の時間の指導法」や「特別支援教育の基礎」などの教職専門科目と，「ダイバーシティと教育」や「現代社会と子どもの権利」などのフラッグシップ指定科目を体系的に編成する。
●教職力量を自らひらく力を育成するため，学校インターンシップ科目，「養護実習」や「教職実践演習」などの教職専門科目と，「教職のための省察入門」などのフラッグシップ指定科目を体系的に編成する。
●各授業は，講義・演習・実験・実習などの方法により展開する。
●成績評価は，全学共通の評価基準を明示の上，プレゼンテーション，レポート，試験など，多様な方法により行うものとするとともに，どのように成績に反映されるか，シラバスに明記する。
●指導技術を向上させるための研修や教員同士での授業参観などを定期的に開催し，授業改善に取り組む。

◆プログラムの履修要件（アドミッション・ポリシー）

●養護教諭をめざすために必要な基礎学力があり，十分な教育実践力を身に付けようとする意欲にあふれる人
●養護教諭になることを強く希望し，その意志を持ち続けることのできる人

●子どもたちの健康な学校生活を支援することにやりがいと使命を感じる人
●人と明るく温かなコミュニケーションが図れる能力や個性を備えている人
※生物，化学を入学までに学習していることが望ましい。

◆各回生の到達目標

履修回生	到達目標
１回生	豊かな教養と広い視野を醸成する上で必要不可欠な基本的知識・技能を体系的に理解し，修得する。 教職の意義や教員の役割，職務内容及び教育を考えていく上で必要不可欠な基本的理念や思想を歴史的・体系的に理解し，教職への動機づけを図る。 幼児・児童・生徒の発達および学習の基礎的過程，いじめや不登校などの諸課題，障がいのある児童の理解と支援，教育測定と評価などについて理解する。 ダイバーシティ教育の基礎について学び，現代社会や学校教育における子どもの多様性について理解を深め，学校現場の観察経験から学び続ける教師のための素地を形成する。 養護教諭として，からだの構造・機能，子どもの発育・発達に関する基礎的知識を修得するとともに，子どもの健康の保持増進を考えていく上で必要不可欠な基本的理念・知識を体系的に理解する。
２回生	人権の尊重，子どもの生活背景について理解し，学校の役割と経営についての基礎知識を修得するとともに学習指導や学級経営等における教師として必要な指導力の基礎を養う。 また，今日における生徒指導上の諸課題に関する理論的・実践的な認識を身に付けるとともに，学校安全や危機管理についての基本的事項を理解する。 道徳教育の歴史および主要な道徳教育理論・方法について理解し，道徳教育に関する基礎的知識を修得する。 また，学校現場での教育活動から自らの実践を振り返り，学び続ける教師となるための基礎的な資質・能力を育成する。 健康診断，保健教育や保健室経営等における養護教諭として必要な指導力の基礎を養う。 子どもの援助と指導に関して，看護学・精神保健学の基本的理論と技法・技能を修得する。 さらには，学校インターンシップによる現場観察・体験活動を通じて，教職実践に向けた基礎的知識・技能を修得する。
３回生	教師が行う子どもの指導と援助に関して，心理学の基礎的な理論や教育相談（カウンセリングを含む）などの技法，いじめや不登校など子どもの問題行動について理解する。 子ども理解と自治活動の指導を中心とした特別活動の視点と，総合的な学習の時間の指導法を理解する。

	健康相談の知識・技能を修得するとともに，救急処置実習・臨床実習を通して，実践的な更なる技能の向上を図り，養護実習の履修前に知識・技能を深める。 養護実習を行い学校現場における経験を踏まえ，学修成果と今後の課題を再認識する。
４回生	養護教諭になるために必要な養護専門科目の履修と卒業研究を通して，更なる深い専門的知識と技能を修得する。 ４年間の集大成として養護教諭として必要な知識・技能全体について，到達点と課題を確認し，課題克服に努める。

教育協働学科

教育心理科学プログラム
取得できる学位：学士（教育学）

◆プログラムの概要と人材養成のねらい

本プログラムでは，生涯教育学，心理学，社会福祉学といった専門諸科学を基盤とし，人間と社会のかかえるさまざまな課題を科学的に理解し，実践的にかかわることを通して，すべての人々が豊かで充実した社会生活を実現することをめざした共生社会の発展に貢献しようとする人材の育成を目的とします。そのため，「チーム学校」の中で教育活動を直接的に支援する専門性を有した「教育協働人材」を養成するとともに，家庭や企業など社会のあらゆる領域や場面でおこなわれる教育･学習活動を広く支援･主導し，教育活動に協働できる人材を育成します。

◆プログラムの到達目標（ディプロマ・ポリシー）

（１）豊かな教養と広い視野

・人文，社会，自然，芸術，スポーツ等の学術的・実践的な基本的知識とアカデミックライティングなどの初年次に必要な基本的スキルを学び，キャリア形成に向けた，ICT 活用能力，言語運用能力，コミュニケーション力，および論理的・批判的思考からなる汎用基礎力を身に付けている。

・世界の多様性を理解し，異文化・多文化を受容できる寛容な態度を身に付けている。

（２）教育理解

・社会や教育現場のグローバル化に対応し，学校や地域等と連携・協働しながら課題解決にあたる教育協働人材としての意欲や態度を身に付けている。

・教育の理念や歴史及び思想，子どもの発達と心理の理解，教育制度全般や学校の組織と役割の理解等の教育の基礎理論，及び学校安全に関する理解を含む教育についての基礎的知識を身に付けている。

（３）協働力

・他者と協働して教育･心理･福祉に関する問題を分析し，その課題を整理することができる。

・他者と協働して課題解決に向けてのプランを策定することができる。

・課題解決プランを他者と協働して実行するための実践力を身に付けている。

（４）専門的知識・技能

・生涯教育・心理・福祉分野に係る専門的知識・技能を備えている。

・専門的知識・技能を用いて，専門分野に関わる内容やその意義を社会に向けて的確に伝達，表現することができる。

・専門的知識・技能を主体的に活用し，行動することができる。

（５）教育協働実践力

・教育的視点から学校・家庭・地域・社会と連携・協働することで，グローバル時代における多様な課題を解決するために実践的に行動できる。

◆カリキュラム立案と実施方法についての方針（カリキュラム・ポリシー）

●豊かな教養と広い視野を育成するため，学術的な基本的知識の獲得とアカデミックライティングなどの大学生活を送る上で必要な資質・能力やキャリア形成に向けた語学運用能力，ICT 活用能力の育成などを盛り込む教養教育の質的充実を図る。
●教育の理解を深めるため，教育基礎科目における「教育基礎セミナー」や「ダイバーシティと教育」,「現代社会と子どもの権利」,「教育総論」,「学校の役割と経営」や「学校安全」などにより体系的に編成する。
●協働力を育成するため，専門教育科目に教育協働科目を開設し，「教育協働概論Ⅰ・Ⅱ」,「教育協働実践デザイン演習」などの協働共通科目，専攻共通科目を体系的に編成する。
●専門的知識・技能を身に付けさせるため，専門教育科目において，生涯教育学・心理学・社会福祉学に関する専攻分野科目を体系的に編成する。
●教育協働実践力を育成するため，専門教育科目における教育協働科目「教育コラボレーション演習」,「外国語実践演習」，課題解決型学習（PBL）科目であるプロジェクト演習科目などにより体系的に編成する。
●各授業は，講義・演習・実験・実習などの方法により展開する。
●成績評価は，全学共通の評価基準を明示の上，プレゼンテーション，レポート，試験など，多様な方法により行うものとするとともに，どのように成績に反映されるか，シラバスに明記する。
●指導技術を向上させるための研修や教員同士での授業参観などを定期的に開催し，授業改善に取り組む。

◆プログラムの履修要件（アドミッション・ポリシー）

●生涯教育学，心理学，社会福祉学に関心をもつ人
●高等教育レベルの生涯教育学，心理学，社会福祉学の学習に必要な基礎学力をもつ人
●論理的に思考し，考えたことを他者にわかるよう明確に表現することができる人
●将来，学校，家庭，地域社会における教育・学習活動を支援する仕事に就きたいと考えている人
●図書館司書資格や社会教育主事任用資格を取得したい人

◆各回生の到達目標

履修回生	到達目標
1 回生	豊かな教養と広い視野を醸成する上で必要不可欠な基本的知識・技能を体系的に理解し，修得する。 教育を考えていく上で必要となる教育の理念や歴史，子どもの発達に関する基本的知識や教育協働の基礎的概念を修得する。 ダイバーシティ教育の基礎について学び，現代社会や学校教育における子どもの多様性について理解を深める。 教育協働人材として必要となる生涯教育･心理・福祉分野に関する基礎的知識を修得する。本専攻で学ぶために必要な基本的な知識や技能を習得し，学修した知識･技術を主体的に実践する意識を育成する。

２回生	教育を考えていく上で必要となる学校の役割や学校安全に関する基本的知識を修得し教育の基礎理論を理解するとともに，社会教育や教育協働に関する関心を深める。 教育協働人材として必要となる協働の理念や方法論とあわせて，専門分野の研究に必要な基礎的技法を修得するとともに今日的な課題について関心を深め，教育協働人材として必要な基礎を養う。 地域や学校との協働を行う専門職として課題解決や連携を行う際に必要な知識や手法を学修する。
３回生	教育協働人材として必要となる生涯教育･心理・福祉分野に関する専門的知識・技能を修得するとともに教育協働人材として必要な問題解決実践力を養う。 また，教育協働の概念を踏まえ，教育コラボレーション演習，外国語実践演習などの学びを通じて教育協働実践に向けた基礎技能を修得する。 プロジェクト学習，見学，インターンシップ等を通じて実践力を養う。
４回生	4年間の教育課程の集大成として卒業論文を作成することで，教育協働人材として身に付けた知識や技能の到達点を確認する。課題解決型学習（ＰＢＬ）を通じて，教育協働の実践力･コーディネート力を深める。

健康安全科学プログラム
取得できる学位：学士（教育学）

◆プログラムの概要と人材養成のねらい

子どもたちを健康で安全に育む教育環境は，様々な教育活動の基盤となる要素であり，今日の複雑な社会の中で，安全・安心，健康な教育環境づくりへの要望が高まっています。一方，健康と安全に関わる諸課題は社会の発展に伴い，ますます複雑化・多様化していることから，健康で安全な教育環境を幅広い視野で構築できる創意工夫に富んだ人材の育成が必要です。 本プログラムでは，学校の安全，心身の健康と安全，食の安全と衛生，地域の安全等，教育環境を巡る安全・安心，健康の諸課題を科学的に捉える力と諸課題に対応できる応用力を持ち，学校，地域住民組織，企業，自治体，NPO などの多様な場において，健康で安全な教育環境の構築に貢献できる人材を育成します。

◆プログラムの到達目標（ディプロマ・ポリシー）

（１）豊かな教養と広い視野 ・人文，社会，自然，芸術，スポーツ等の学術的・実践的な基本的知識とアカデミックライティングなどの初年次に必要な基本的スキルを学び，キャリア形成に向けた，ICT 活用能力，言語運用能力，コミュニケーション力，および論理的・批判的思考からなる汎用基礎力を身に付けている。 ・世界の多様性を理解し，異文化・多文化を受容できる寛容な態度を身に付けている。
（２）教育理解 ・社会や教育現場のグローバル化に対応し，学校や地域等と連携・協働しながら課題解決にあたる教育協働人材としての意欲や態度を身に付けている。 ・教育の理念や歴史及び思想，子どもの発達と心理の理解，教育制度全般や学校の組織と役割の理解等の教育の基礎理論，及び学校安全に関する理解を含む教育についての基礎的知識を身に付けている。
（３）協働力 ・他者と協働して安全と健康に関する問題を分析し，その課題を整理することができる。 ・他者と協働して課題解決に向けてのプランを策定することができる。 ・課題解決プランを他者と協働して実行するための実践力を身に付けている。
（４）専門的知識・技能 ・健康安全科学の分野に係る専門的知識・技能を備えている。 ・専門的知識・技能を用いて，専門分野に関わる内容やその意義を社会に向けて的確に伝達，表現することができる。 ・専門的知識・技能を主体的に活用し，行動することができる。
（５）教育協働実践力 ・教育的視点から学校・家庭・地域・社会と連携・協働することで，グローバル時代における多様な課題を解決するために実践的に行動できる。

◆カリキュラム立案と実施方法についての方針（カリキュラム・ポリシー）

●豊かな教養と広い視野を育成するため，学術的な基本的知識の獲得とアカデミックライティングなどの大学生活を送る上で必要な資質・能力やキャリア形成に向けた語学運用能力，ICT 活用能力の育成などを盛り込む教養教育の質的充実を図る。
●教育の理解を深めるため，教育基礎科目における「教育基礎セミナー」や「ダイバーシティと教育」,「現代社会と子どもの権利」,「教育総論」,「学校の役割と経営」や「学校安全」などにより体系的に編成する。
●協働力を育成するため，専門教育科目に教育協働科目を開設し，「教育協働概論Ⅰ・Ⅱ」,「教育協働実践デザイン演習」などの協働共通科目，専攻共通科目を体系的に編成する。
●専門的知識・技能を身に付けさせるため，専門教育科目において，健康安全科学に関する専攻分野科目を体系的に編成する。
●教育協働実践力を育成するため，専門教育科目における教育協働科目「教育コラボレーション演習」,「外国語実践演習」，課題解決型学習（PBL）科目であるプロジェクト演習科目などにより体系的に編成する。
●各授業は，講義・演習・実験・実習などの方法により展開する。
●成績評価は，全学共通の評価基準を明示の上，プレゼンテーション，レポート，試験など，多様な方法により行うものとするとともに，どのように成績に反映されるか，シラバスに明記する。
●指導技術を向上させるための研修や教員同士での授業参観などを定期的に開催し，授業改善に取り組む。

◆プログラムの履修要件（アドミッション・ポリシー）

●健康で安全な教育環境の諸課題に対し，強い関心と問題意識を持つ人
●学校の安全，心身の健康と安全，食の安全と衛生，地域の安全等について，専門分野を横断して幅広い視野で学ぶ姿勢を持っている人
●学校の安全，心身の健康と安全，食の安全と衛生，地域の安全等，教育環境を巡る安全・安心，健康の諸課題を科学的に捉える力と専門的知識を身につけたい人
●学校および地域の多様な組織と協働し，健康で安全な教育環境の推進に貢献したい人

◆各回生の到達目標

履修回生	到達目標
1 回生	豊かな教養と広い視野を醸成する上で必要不可欠な基本的知識･技能を体系的に理解し，修得する。 教育を考えていく上で必要となる教育の理念や歴史,子どもの発達に関する基本的知識や教育協働の基礎的概念を修得する。 ダイバーシティ教育の基礎について学び,現代社会や学校教育における子どもの多様性について理解を深める。 教育協働人材として必要となる健康安全科学分野に関する基礎的知識を修得する。

２回生	教育を考えていく上で必要となる学校の役割や学校安全に関する基本的知識を修得し教育の基礎理論を理解するとともに,社会教育や教育協働に関する関心を深める。 教育協働人材として必要となる健康安全科学分野に関する基礎的知識･技能を修得する。
３回生	教育協働人材として必要となる健康安全科学分野に関する専門的知識･技能を修得するとともに，社会の一員として連携･協働するために必要な問題解決能力を養う。 また，教育協働の概念を踏まえ，教育コラボレーション演習，外国語実践演習などの学びを通じて教育協働実践に向けた基礎技能を修得する。
４回生	４年間の教育課程の集大成とし，教育協働人材としての必要な知識･技能に係る到達点と課題を確認し，課題解決型学習（ＰＢＬ）を通じて，教育協働の実践力を深める。

理数情報（数理情報）プログラム
取得できる学位：学士（教育学）

◆プログラムの概要と人材養成のねらい

移り変わる現代社会を生き抜くために，様々な事象・現象に対する科学的な考え方が重要となっています。従って，それを指導・支援できる理系人材育成が，これからの教育・社会活動に不可欠です。本プログラムでは数理科学・情報科学の専門知識に加えて，理解力・思考力・データ分析技能・コミュニケーション能力を兼ね備えた「教育マインド」を持った人材を育成します。さらに，その技術・能力・方法論を学校や社会にフィードバックすることで，チーム学校を含む地域社会の中で学び続けることができる人材を育成します。

◆プログラムの到達目標（ディプロマ・ポリシー）

（１）豊かな教養と広い視野 ・人文，社会，自然，芸術，スポーツ等の学術的・実践的な基本的知識とアカデミックライティングなどの初年次に必要な基本的スキルを学び，キャリア形成に向けた，ICT活用能力，言語運用能力，コミュニケーション力，および論理的・批判的思考からなる汎用基礎力を身に付けている。 ・世界の多様性を理解し，異文化・多文化を受容できる寛容な態度を身に付けている。
（２）教育理解 ・社会や教育現場のグローバル化に対応し，学校や地域等と連携・協働しながら課題解決にあたる教育協働人材としての意欲や態度を身に付けている。 ・教育の理念や歴史及び思想，子どもの発達と心理の理解，教育制度全般や学校の組織と役割の理解等の教育の基礎理論，及び学校安全に関する理解を含む教育についての基礎的知識を身に付けている。
（３）協働力 ・他者と協働して数理科学・情報科学に関する問題を分析し，その課題を整理することができる。 ・他者と協働して課題解決に向けてのプランを策定することができる。 ・課題解決プランを他者と協働して実行するための実践力を身に付けている。
（４）専門的知識・技能 ・数理科学・情報科学分野に係る専門的知識・技能を備えている。 ・専門的知識・技能を用いて，専門分野に関わる内容やその意義を社会に向けて的確に伝達，表現することができる。 ・専門的知識・技能を主体的に活用し，行動することができる。
（５）教育協働実践力 ・教育的視点から学校・家庭・地域・社会と連携・協働することで，グローバル時代における多様な課題を解決するために実践的に行動できる。

◆カリキュラム立案と実施方法についての方針（カリキュラム・ポリシー）

●豊かな教養と広い視野を育成するため，学術的な基本的知識の獲得とアカデミックライティングなどの大学生活を送る上で必要な資質･能力やキャリア形成に向けた語学運用能力，ICT 活用能力の育成などを盛り込む教養教育の質的充実を図る。
●教育の理解を深めるため，教育基礎科目における「教育基礎セミナー」や「ダイバーシティと教育」,「現代社会と子どもの権利」,「教育総論」,「学校の役割と経営」や「学校安全」などにより体系的に編成する。
●協働力を育成するため，専門教育科目に教育協働科目を開設し，「教育協働概論Ⅰ・Ⅱ」,「教育協働実践デザイン演習」などの協働共通科目，専攻共通科目を体系的に編成する。
●専門的知識・技能を身に付けさせるため，専門教育科目において，数理情報に関する専攻分野科目を体系的に編成する。
●教育協働実践力を育成するため，専門教育科目における教育協働科目「教育コラボレーション演習」,「外国語実践演習」，課題解決型学習（PBL）科目であるプロジェクト演習科目などにより体系的に編成する。
●各授業は，講義・演習・実験・実習などの方法により展開する。
●成績評価は，全学共通の評価基準を明示の上，プレゼンテーション，レポート，試験など，多様な方法により行うものとするとともに，どのように成績に反映されるか，シラバスに明記する。
●指導技術を向上させるための研修や教員同士での授業参観などを定期的に開催し，授業改善に取り組む。

◆プログラムの履修要件（アドミッション・ポリシー）

●未知の現象を探求し，その社会的意義を説明する意欲を持つ人
●数理科学・情報科学に関する教育支援活動に興味がある人
●数理科学・情報科学の有効な活用にアイディアを持つ人
●科学技術・計算機分野の知識を活かして社会に貢献したい人

◆各回生の到達目標

履修回生	到達目標
１回生	豊かな教養と広い視野を醸成する上で必要不可欠な基本的知識・技能を体系的に理解し，修得する。 教育を考えていく上で必要となる教育の理念や歴史，子どもの発達に関する基本的知識や教育協働の基礎的概念を修得する。 ダイバーシティ教育の基礎について学び，現代社会や学校教育における子どもの多様性について理解を深める。 教育協働人材として必要となる数理情報分野に関する基礎的知識を修得する。
２回生	教育を考えていく上で必要となる学校の役割や学校安全に関する基本的知識を修得し教育の基礎理論を理解するとともに，社会教育や教育協働に

	関する関心を深める。 　教育協働人材として必要となる数理科学・情報科学分野に関する基礎的知識・技能を修得する。
３回生	教育協働人材として必要となる数理科学・情報科学分野に関する専門的知識・技能を修得するとともに，社会の一員として連携・協働するために必要な問題解決能力を養う。 　また，教育協働の概念を踏まえ，教育コラボレーション演習，外国語実践演習などの学びを通じて教育協働実践に向けた基礎技能を修得する。
４回生	４年間の教育課程の集大成とし，教育協働人材としての必要な知識・技能に係る到達点と課題を確認し，課題解決型学習（ＰＢＬ）を通じて，教育協働の実践力を深める。

理数情報（自然科学）プログラム
取得できる学位：学士（教育学）

◆プログラムの概要と人材養成のねらい

移り変わる現代社会を生き抜くために，様々な事象・現象に対する科学的な考え方が重要となっています。従って，それを指導・支援できる理系人材育成が，これからの教育・社会活動に不可欠です。本プログラムでは自然科学の専門知識に加えて，自然科学的な手法を用いた課題解決力を持ち，理解力・思考力・データ分析技能・コミュニケーション能力を兼ね備えた「教育マインド」を持った人材を育成します。さらに，その技術・能力・方法論を学校や社会にフィードバックすることで，チーム学校を含む地域社会の中で学び続けることができる人材を育成します。

◆プログラムの到達目標（ディプロマ・ポリシー）

（１）豊かな教養と広い視野 ・人文，社会，自然，芸術，スポーツ等の学術的・実践的な基本的知識とアカデミックライティングなどの初年次に必要な基本的スキルを学び，キャリア形成に向けた，ICT活用能力，言語運用能力，コミュニケーション力，および論理的・批判的思考からなる汎用基礎力を身に付けている。 ・世界の多様性を理解し，異文化・多文化を受容できる寛容な態度を身に付けている。
（２）教育理解 ・社会や教育現場のグローバル化に対応し，学校や地域等と連携・協働しながら課題解決にあたる教育協働人材としての意欲や態度を身に付けている。 ・教育の理念や歴史及び思想，子どもの発達と心理の理解，教育制度全般や学校の組織と役割の理解等の教育の基礎理論，及び学校安全に関する理解を含む教育についての基礎的知識を身に付けている。
（３）協働力 ・他者と協働して自然科学に関する問題を分析し，その課題を整理することができる。 ・他者と協働して課題解決に向けてのプランを策定することができる。 ・課題解決プランを他者と協働して実行するための実践力を身に付けている。
（４）専門的知識・技能 ・自然科学分野に係る専門的知識・技能を備えている。 ・専門的知識・技能を用いて，専門分野に関わる内容やその意義を社会に向けて的確に伝達，表現することができる。 ・専門的知識・技能を主体的に活用し，行動することができる。
（５）教育協働実践力 ・教育的視点から学校・家庭・地域・社会と連携・協働することで，グローバル時代における多様な課題を解決するために実践的に行動できる。

◆カリキュラム立案と実施方法についての方針（カリキュラム・ポリシー）

●豊かな教養と広い視野を育成するため，学術的な基本的知識の獲得とアカデミックライティングなどの大学生活を送る上で必要な資質･能力やキャリア形成に向けた語学運用能力，ICT 活用能力の育成などを盛り込む教養教育の質的充実を図る。
●教育の理解を深めるため，教育基礎科目における「教育基礎セミナー」や「ダイバーシティと教育」,「現代社会と子どもの権利」,「教育総論」,「学校の役割と経営」や「学校安全」などにより体系的に編成する。
●協働力を育成するため，専門教育科目に教育協働科目を開設し，「教育協働概論Ⅰ・Ⅱ」,「教育協働実践デザイン演習」などの協働共通科目，専攻共通科目を体系的に編成する。
●専門的知識・技能を身に付けさせるため，専門教育科目において，自然科学に関する専攻分野科目を体系的に編成する。
●教育協働実践力を育成するため，専門教育科目における教育協働科目「教育コラボレーション演習」,「外国語実践演習」，課題解決型学習（PBL）科目であるプロジェクト演習科目などにより体系的に編成する。
●各授業は，講義・演習・実験・実習などの方法により展開する。
●成績評価は，全学共通の評価基準を明示の上，プレゼンテーション，レポート，試験など，多様な方法により行うものとするとともに，どのように成績に反映されるか，シラバスに明記する。
●指導技術を向上させるための研修や教員同士での授業参観などを定期的に開催し，授業改善に取り組む。

◆プログラムの履修要件（アドミッション・ポリシー）

●教育現場，企業で必要な自然科学の基礎力とそれに関する表現力がある人
●未知の現象を探求し，その社会的意義を説明する意欲を持つ人
●自然科学に関わる教育支援活動に興味がある人
●自然科学の有効な活用にアイディアを持つ人
●科学技術分野のインストラクターやアドバイザーを目指している人

◆各回生の到達目標

履修回生	到達目標
１回生	豊かな教養と広い視野を醸成する上で必要不可欠な基本的知識・技能を体系的に理解し，修得する。 教育を考えていく上で必要となる教育の理念や歴史，子どもの発達に関する基本的知識や教育協働の基礎的概念を修得する。 ダイバーシティ教育の基礎について学び，現代社会や学校教育における子どもの多様性について理解を深める。 教育協働人材として必要となる自然科学分野に関する基礎的知識を修得する。

２回生	教育を考えていく上で必要となる学校の役割や学校安全に関する基本的知識を修得し教育の基礎理論を理解するとともに，社会教育や教育協働に関する関心を深める。 教育協働人材として必要となる自然科学分野に関する基礎的知識・技能を修得するとともに今日的な課題について関心を深め，自然科学の専門的思考を行うために必要な基礎を養う。
３回生	教育協働人材として必要となる自然科学分野に関する専門的知識・技能を修得するとともに社会の一員として連携・協働し，知識・技能を活用するために必要な問題解決能力を養う。 また，教育協働の概念を踏まえ，教育コラボレーション演習，外国語実践演習などの学びを通じて教育協働実践に向けた基礎技能を修得する。
４回生	４年間の教育課程の集大成とし，教育協働人材としての必要な知識・技能に係る到達点と課題を確認し，課題解決型学習（ＰＢＬ）を通じて，教育協働の実践力を深める。自然科学の研究手法や実践力を養う。

グローバル教育（英語コミュニケーション）プログラム
取得できる学位：学士（教育学）

◆プログラムの概要と人材養成のねらい

本プログラムでは，英語，コミュニケーション能力，人文社会学系学問に基盤を置く文化的リテラシー，教育に関わる学際的な関心に立脚する教育マインド，および，多様な他者と豊かに共生できる素養を身につけ，グローバル化が進展する社会において，学校や地域と協働して新たな教育領域と教育活動の創生ができる人材の育成，特に，グローバルに通用する英語コミュニケーション能力と英米的な自由な発想による創造性・論理性・積極性の育成を行います。

◆プログラムの到達目標（ディプロマ・ポリシー）

（１）豊かな教養と広い視野 ・人文，社会，自然，芸術，スポーツ等の学術的・実践的な基本的知識とアカデミックライティングなどの初年次に必要な基本的スキルを学び，キャリア形成に向けた，ICT活用能力，言語運用能力，コミュニケーション力，および論理的・批判的思考からなる汎用基礎力を身に付けている。 ・世界の多様性を理解し，異文化・多文化を受容できる寛容な態度を身に付けている。
（２）教育理解 ・社会や教育現場のグローバル化に対応し，学校や地域等と連携・協働しながら課題解決にあたる教育協働人材としての意欲や態度を身に付けている。 ・教育の理念や歴史及び思想，子どもの発達と心理の理解，教育制度全般や学校の組織と役割の理解等の教育の基礎理論，及び学校安全に関する理解を含む教育についての基礎的知識を身に付けている。
（３）協働力 ・他者と協働して英語コミュニケーションに関する問題を分析し，その課題を整理することができる。 ・他者と協働して課題解決に向けてのプランを策定することができる。 ・課題解決プランを他者と協働して実行するための実践力を身に付けている。
（４）専門的知識・技能 ・英語コミュニケーション，英語学，英米地域研究，英米文学に係る専門的知識・技能を備えている。 ・専門的知識・技能を用いて，専門分野に関わる内容やその意義を社会に向けて的確に伝達，表現することができる。 ・専門的知識・技能を主体的に活用し，行動することができる。
（５）教育協働実践力 ・教育的視点から学校・家庭・地域・社会と連携・協働することで，グローバル時代における多様な課題を解決するために実践的に行動できる。

◆カリキュラム立案と実施方法についての方針（カリキュラム・ポリシー）

●豊かな教養と広い視野を育成するため，学術的な基本的知識の獲得とアカデミックラ

イティングなどの大学生活を送る上で必要な資質･能力やキャリア形成に向けた語学運用能力，ICT 活用能力の育成などを盛り込む教養教育の質的充実を図る。
●教育の理解を深めるため，教育基礎科目における「教育基礎セミナー」や「ダイバーシティと教育」,「現代社会と子どもの権利」,「教育総論」,「学校の役割と経営」や「学校安全」などにより体系的に編成する。
●協働力を育成するため，専門教育科目に教育協働科目を開設し，「教育協働概論Ⅰ・Ⅱ」,「教育協働実践デザイン演習」などの協働共通科目，専攻共通科目を体系的に編成する。
●専門的知識・技能を身に付けさせるため，専門教育科目において，英語コミュニケーションに関する専攻分野科目を体系的に編成する。
●教育協働実践力を育成するため，専門教育科目における教育協働科目「教育コラボレーション演習」,「外国語実践演習」，課題解決型学習（PBL）科目であるプロジェクト演習科目などにより体系的に編成する。
●各授業は，講義・演習・実験・実習などの方法により展開する。
●成績評価は，全学共通の評価基準を明示の上，プレゼンテーション，レポート，試験など，多様な方法により行うものとするとともに，どのように成績に反映されるか，シラバスに明記する。
●指導技術を向上させるための研修や教員同士での授業参観などを定期的に開催し，授業改善に取り組む。

◆プログラムの履修要件（アドミッション・ポリシー）

●高度な英語のスキルと広い視野を身につけ，グローバル化する社会において，地域や学校での教育・学習を支援することを望む人
●英語を活かした職業について世界にはばたくことを望む人

◆各回生の到達目標

履修回生	到達目標
1 回生	豊かな教養と広い視野を醸成する上で必要不可欠な基本的知識･技能を体系的に理解し，修得する。 教育を考えていく上で必要となる教育の理念や歴史,子どもの発達に関する基本的知識や教育協働の基礎的概念を修得する。 ダイバーシティ教育の基礎について学び,現代社会や学校教育における子どもの多様性について理解を深める。 教育協働人材として必要となる英語コミュニケーション，英語学，英米地域研究，英米文学に関する基礎的知識を修得する。 高度な英語 4 技能を身に付け，語学研修等に参加することにより，交換留学の基盤を作る。
2 回生	教育を考えていく上で必要となる学校の役割や学校安全に関する基本的知識を修得し教育の基礎理論を理解するとともに,社会教育や教育協働に関する関心を深める。 教育協働人材として必要となる英語コミュニケーション，英語学，英米地

	域研究，英米文学に関する基礎的知識・技能を修得するとともに今日的な課題について関心を深め，英語コミュニケーション能力を社会における教育や学習の支援に活用するために必要な基礎を養う。 交換留学に応募可能な英語能力測定試験のスコアを獲得する。
３回生	教育協働人材として必要となる英語コミュニケーション，英語学，英米地域研究，英米文学に関する専門的知識・技能を修得するとともに英語での学術論文の書き方を身に付ける。 また，教育協働の概念を踏まえ，教育コラボレーション演習，外国語実践演習などの学びを通じて教育協働実践に向けた基礎技能を修得する。 海外で学び生活するのに十分な英語力や知識を身に付ける。
４回生	４年間の教育課程の集大成とし，教育協働人材としての必要な知識・技能に係る到達点と課題を確認し，課題解決型学習（ＰＢＬ）を通じて，教育協働の実践力を深める。 英語で卒業論文が執筆できる。

グローバル教育（多文化リテラシー）プログラム
取得できる学位：学士（教育学）

◆プログラムの概要と人材養成のねらい

本プログラムでは，優れたコミュニケーション能力を基礎に，人文社会学系学問を中心とした文化的リテラシー，教育に関わる学際的な関心に立脚する教育マインド，および，多様な他者と豊かに共生できる素養を身につけ，グローバル化が進展する社会において，学校や地域と協働して新たな教育領域と教育活動の創生ができる人材を育成します。

◆プログラムの到達目標（ディプロマ・ポリシー）

（１）豊かな教養と広い視野 ・人文，社会，自然，芸術，スポーツ等の学術的・実践的な基本的知識とアカデミックライティングなどの初年次に必要な基本的スキルを学び，キャリア形成に向けた，ICT活用能力，言語運用能力，コミュニケーション力，および論理的・批判的思考からなる汎用基礎力を身に付けている。 ・世界の多様性を理解し，異文化・多文化を受容できる寛容な態度を身に付けている。
（２）教育理解 ・社会や教育現場のグローバル化に対応し，学校や地域等と連携・協働しながら課題解決にあたる教育協働人材としての意欲や態度を身に付けている。 ・教育の理念や歴史及び思想，子どもの発達と心理の理解，教育制度全般や学校の組織と役割の理解等の教育の基礎理論，及び学校安全に関する理解を含む教育についての基礎的知識を身に付けている。
（３）協働力 ・他者と協働して現代の教育および社会に関する問題を分析し，その課題を整理することができる。 ・他者と協働して課題解決に向けてのプランを策定することができる。 ・課題解決プランを他者と協働して実行するための実践力を身に付けている。
（４）専門的知識・技能 ・多様な言語・社会・芸術文化に関連する分野の専門的知識・技能を備えている。 ・専門的知識・技能を用いて，専門分野に関わる内容やその意義を社会に向けて的確に伝達，表現することができる。 ・専門的知識・技能を主体的に活用し，行動することができる。
（５）教育協働実践力 ・教育的視点から学校・家庭・地域・社会と連携・協働することで，グローバル時代における多様な課題を解決するために実践的に行動できる。

◆カリキュラム立案と実施方法についての方針（カリキュラム・ポリシー）

●豊かな教養と広い視野を育成するため，学術的な基本的知識の獲得とアカデミックライティングなどの大学生活を送る上で必要な資質･能力やキャリア形成に向けた語学運用能力，ICT 活用能力の育成などを盛り込む教養教育の質的充実を図る。
●教育の理解を深めるため，教育基礎科目における「教育基礎セミナー」や「ダイバーシティと教育」,「現代社会と子どもの権利」,「教育総論」,「学校の役割と経営」や「学校安全」などにより体系的に編成する。
●協働力を育成するため，専門教育科目に教育協働科目を開設し，「教育協働概論Ⅰ・Ⅱ」,「教育協働実践デザイン演習」などの協働共通科目，専攻共通科目を体系的に編成する。
●専門的知識・技能を身に付けさせるため，専門教育科目において，多文化リテラシーに関する専攻分野科目を体系的に編成する。
●教育協働実践力を育成するため，専門教育科目における教育協働科目「教育コラボレーション演習」,「外国語実践演習」，課題解決型学習（PBL）科目であるプロジェクト演習科目などにより体系的に編成する。
●各授業は，講義・演習・実験・実習などの方法により展開する。
●成績評価は，全学共通の評価基準を明示の上，プレゼンテーション，レポート，試験など，多様な方法により行うものとするとともに，どのように成績に反映されるか，シラバスに明記する。
●指導技術を向上させるための研修や教員同士での授業参観などを定期的に開催し，授業改善に取り組む。

◆プログラムの履修要件（アドミッション・ポリシー）

●日本・アジアやヨーロッパの文化に深い関心を持ち，将来，国際社会やグローバル化する地域社会，学校などで種々の教育活動に取り組むことを望む人
●グローバル化する社会が抱える課題に対して，多文化理解力とコミュニケーション能力を活用して，企業，地域，自治体などと連携・協働をすすめながら課題解決に取り組むことを望む人
●多様な言語と文化について理解を深め，優れたコミュニケーション能力を基礎にしながら特色ある国語教育に関わろうとする人

◆各回生の到達目標

履修回生	到達目標
1 回生	豊かな教養と広い視野を醸成する上で必要不可欠な基本的知識･技能を体系的に理解し，修得する。 教育を考えていく上で必要となる教育の理念や歴史,子どもの発達に関する基本的知識や教育協働の基礎的概念を修得する。 ダイバーシティ教育の基礎について学び,現代社会や学校教育における子どもの多様性について理解を深める。 教育協働人材として必要となる多文化リテラシーに関する基礎的知識を

	修得する。 日本語・日本文学，ドイツ語・ドイツ文学，フランス語・フランス文学，そして中国語・中国文学に関する基礎的教養を修得する。
２回生	教育を考えていく上で必要となる学校の役割や学校安全に関する基本的知識を修得し教育の基礎理論を理解するとともに，社会教育や教育協働に関する関心を深める。 教育協働人材として必要となる多文化リテラシーに関する基礎的知識･技能を修得するとともに今日的な課題について関心を深め，社会や人間の理解に必要な基礎力を養う。
３回生	教育協働人材として必要となる多文化リテラシーに関して，より高度な専門的知識・技能を修得する。 また，教育協働の概念を踏まえ，教育コラボレーション演習，外国語実践演習などの学びを通じて教育協働実践に向けた基礎技能を修得する。
４回生	４年間の教育課程の集大成とし，教育協働人材としての必要な知識･技能に係る到達点と課題を確認し，課題解決型学習（ＰＢＬ）を通じて，教育協働の実践力を深める。

芸術表現（音楽表現）プログラム
取得できる学位：学士（教育学）

◆プログラムの概要と人材養成のねらい

本プログラムでは，音楽表現分野で芸術創造についての深い理解と高い専門能力を身につけるとともに，学校や地域社会と協働して新たな教育領域と社会文化活動の創生に意欲的に参画できる「教育マインド」を有した芸術表現者を育成します。

◆プログラムの到達目標（ディプロマ・ポリシー）

（１）豊かな教養と広い視野 ・人文，社会，自然，芸術，スポーツ等の学術的・実践的な基本的知識とアカデミックライティングなどの初年次に必要な基本的スキルを学び，キャリア形成に向けた，ICT 活用能力，言語運用能力，コミュニケーション力，および論理的・批判的思考からなる汎用基礎力を身に付けている。 ・世界の多様性を理解し，異文化・多文化を受容できる寛容な態度を身に付けている。
（２）教育理解 ・社会や教育現場のグローバル化に対応し，学校や地域等と連携・協働しながら課題解決にあたる教育協働人材としての意欲や態度を身に付けている。 ・教育の理念や歴史及び思想，子どもの発達と心理の理解，教育制度全般や学校の組織と役割の理解等の教育の基礎理論，及び学校安全に関する理解を含む教育についての基礎的知識を身に付けている。
（３）協働力 ・他者と協働して音楽表現と音楽表現教育に関する問題を分析し，その課題を整理することができる。 ・他者と協働して課題解決に向けてのプランを策定することができる。 ・課題解決プランを他者と協働して実行するための実践力を身に付けている。
（４）専門的知識・技能 ・音楽表現分野に係る専門的知識・技能を備えている。 ・専門的知識・技能を用いて，専門分野に関わる内容やその意義を社会に向けて的確に伝達，表現することができる。 ・専門的知識・技能を主体的に活用し，行動することができる。
（５）教育協働実践力 ・教育的視点から学校・家庭・地域・社会と連携・協働することで，グローバル時代における多様な課題を解決するために実践的に行動できる。

◆カリキュラム立案と実施方法についての方針（カリキュラム・ポリシー）

●豊かな教養と広い視野を育成するため，学術的な基本的知識の獲得とアカデミックライティングなどの大学生活を送る上で必要な資質・能力やキャリア形成に向けた語学運用能力，ICT 活用能力の育成などを盛り込む教養教育の質的充実を図る。 ●教育の理解を深めるため，教育基礎科目における「教育基礎セミナー」や「ダイバーシティと教育」,「現代社会と子どもの権利」,「教育総論」,「学校の役割と経営」や「学

校安全」などにより体系的に編成する。
●協働力を育成するため，専門教育科目に教育協働科目を開設し，「教育協働概論Ⅰ・Ⅱ」,「教育協働実践デザイン演習」などの協働共通科目，専攻共通科目を体系的に編成する。
●専門的知識・技能を身に付けさせるため，専門教育科目において，音楽表現に関する専攻分野科目を体系的に編成する。
●教育協働実践力を育成するため，専門教育科目における教育協働科目「教育コラボレーション演習」,「外国語実践演習」，課題解決型学習（PBL）科目であるプロジェクト演習科目などにより体系的に編成する。
●各授業は，講義・演習・実験・実習などの方法により展開する。
●成績評価は，全学共通の評価基準を明示の上，プレゼンテーション，レポート，試験など，多様な方法により行うものとするとともに，どのように成績に反映されるか，シラバスに明記する。
●指導技術を向上させるための研修や教員同士での授業参観などを定期的に開催し，授業改善に取り組む。

◆プログラムの履修要件（アドミッション・ポリシー）

●芸術に興味・関心を持ち，教育及び芸術文化の発展に幅広く貢献したい人
●音楽表現分野で修得した専門領域の高度な表現能力を活かして，地域社会や学校教育現場で指導力を発揮したいと志す人
●優れたコミュニケーション能力を有し，他の人々と協働し，多様な教育課題を解決したいと志す人
●教育や社会における芸術表現の在り方について，実践的かつ持続的な活動を通して探求できる人
●複雑化した現代社会において，人間らしく生きるための糧となる芸術の本質を追求・理解したい人

◆各回生の到達目標

履修回生	到達目標
１回生	豊かな教養と広い視野を醸成する上で必要不可欠な基本的知識・技能を体系的に理解し，修得する。 教育を考えていく上で必要となる教育の理念や歴史，子どもの発達に関する基本的知識や教育協働の基礎的概念を修得する。 ダイバーシティ教育の基礎について学び，現代社会や学校教育における子どもの多様性について理解を深める。 教育協働人材として必要となる音楽表現分野に関する基礎的知識を修得する。
２回生	教育を考えていく上で必要となる学校の役割や学校安全に関する基本的知識を修得し教育の基礎理論を理解するとともに，社会教育や教育協働に関する関心を深める。また音楽表現分野に関する専門的知識・技能を修得する。

３回生	音楽表現分野に関する高度な専門的知識・技能を修得するとともに教育協働人材として必要となる企画・実践力を養う。 また，教育協働の概念を踏まえ，教育コラボレーション演習，外国語実践演習などの学びを通じて教育協働実践に向けた基礎技能を修得する。
４回生	４年間の教育課程の集大成とし，教育協働人材としての必要な知識・技能に係る到達点と課題を確認し，課題解決型学習（ＰＢＬ）を通じて，教育協働の実践力を深める。更に演奏や創作活動を通して国際的な視野を持ち，音楽の指導力を備えた表現者としての自己を確立する。

芸術表現（美術表現）プログラム
取得できる学位：学士（教育学）

◆プログラムの概要と人材養成のねらい

本プログラムでは，美術表現分野で芸術創造についての深い理解と高い専門能力を身につけるとともに，学校や地域社会と協働して新たな教育領域と社会文化活動の創生に意欲的に参画できる「教育マインド」を有した芸術表現者を育成します。

◆プログラムの到達目標（ディプロマ・ポリシー）

（１）豊かな教養と広い視野 ・人文，社会，自然，芸術，スポーツ等の学術的・実践的な基本的知識とアカデミックライティングなどの初年次に必要な基本的スキルを学び，キャリア形成に向けた，ICT 活用能力，言語運用能力，コミュニケーション力，および論理的・批判的思考からなる汎用基礎力を身に付けている。 ・世界の多様性を理解し，異文化・多文化を受容できる寛容な態度を身に付けている。
（２）教育理解 ・社会や教育現場のグローバル化に対応し，学校や地域等と連携・協働しながら課題解決にあたる教育協働人材としての意欲や態度を身に付けている。 ・教育の理念や歴史及び思想，子どもの発達と心理の理解，教育制度全般や学校の組織と役割の理解等の教育の基礎理論，及び学校安全に関する理解を含む教育についての基礎的知識を身に付けている。
（３）協働力 ・他者と協働して美術表現活動と教育に関わる問題を分析し，その課題を整理することができる。 ・他者と協働して課題解決に向けてのプランを策定することができる。 ・課題解決プランを他者と協働して実行するための実践力を身に付けている。
（４）専門的知識・技能 ・美術表現分野に係る専門的知識・技能を備えている。 ・専門的知識・技能を用いて，専門分野に関わる内容やその意義を社会に向けて的確に伝達，表現することができる。 ・専門的知識・技能を主体的に活用し，行動することができる。
（５）教育協働実践力 ・教育的視点から学校・家庭・地域・社会と連携・協働することで，グローバル時代における多様な課題を解決するために実践的に行動できる。

◆カリキュラム立案と実施方法についての方針（カリキュラム・ポリシー）

●豊かな教養と広い視野を育成するため，学術的な基本的知識の獲得とアカデミックライティングなどの大学生活を送る上で必要な資質・能力やキャリア形成に向けた語学運用能力，ICT 活用能力の育成などを盛り込む教養教育の質的充実を図る。 ●教育の理解を深めるため，教育基礎科目における「教育基礎セミナー」や「ダイバーシティと教育」,「現代社会と子どもの権利」,「教育総論」,「学校の役割と経営」や「学

校安全」などにより体系的に編成する。
●協働力を育成するため，専門教育科目に教育協働科目を開設し，「教育協働概論Ⅰ・Ⅱ」，「教育協働実践デザイン演習」などの協働共通科目，専攻共通科目を体系的に編成する。
●専門的知識・技能を身に付けさせるため，専門教育科目において，美術表現分野に関する専攻分野科目を体系的に編成する。
●教育協働実践力を育成するため，専門教育科目における教育協働科目「教育コラボレーション演習」，「外国語実践演習」，課題解決型学習（PBL）科目であるプロジェクト演習科目などにより体系的に編成する。
●各授業は，講義・演習・実験・実習などの方法により展開する。
●成績評価は，全学共通の評価基準を明示の上，プレゼンテーション，レポート，試験など，多様な方法により行うものとするとともに，どのように成績に反映されるか，シラバスに明記する。
●指導技術を向上させるための研修や教員同士での授業参観などを定期的に開催し，授業改善に取り組む。

◆プログラムの履修要件（アドミッション・ポリシー）

●芸術に興味・関心を持ち，教育及び芸術文化の発展に幅広く貢献したい人
●美術表現分野で修得した専門領域の高度な表現能力を活かして，地域社会や学校教育現場で指導力を発揮したいと志す人
●優れたコミュニケーション能力を有し，他の人々と協働し，多様な教育課題を解決したいと志す人
●教育や社会における芸術表現の在り方について，実践的かつ持続的な活動を通して探求できる人
●複雑化した現代社会において，人間らしく生きるための糧となる芸術の本質を追求・理解したい人

◆各回生の到達目標

履修回生	到達目標
1回生	豊かな教養と広い視野を醸成する上で必要不可欠な基本的知識・技能を体系的に理解し，修得する。 教育を考えていく上で必要となる教育の理念や歴史，子どもの発達に関する基本的知識や教育協働の基礎的概念を修得する。 ダイバーシティ教育の基礎について学び，現代社会や学校教育における子どもの多様性について理解を深める。 教育協働人材として必要となる美術表現分野に関する基礎的知識を修得する。

２回生	教育を考えていく上で必要となる学校の役割や学校安全に関する基本的知識を修得し教育の基礎理論を理解するとともに，社会教育や教育協働に関する関心を深める。 教育協働人材として必要となる美術表現分野に関する専門的な知識・技能を修得することにより，高度な美術表現を通した地域･学校連携を主導的に推進する者としての必要な基礎を養う。
３回生	教育協働人材として必要となる美術表現や地域連携プロジェクトに関する専門的知識・技能を修得するとともに，教育協働活動の実践演習を通して，社会的なニーズの把握や，それに応える企画・実践力を修得する。 また，教育協働の概念を踏まえ，教育コラボレーション演習，外国語実践演習などの学びを通じて教育協働実践に向けた基礎技能を修得する。
４回生	４年間の教育課程の集大成とし，教育協働人材としての必要な知識･技能に係る到達点と課題を確認し，課題解決型学習（ＰＢＬ）を通じて，教育協働の実践力を深める。

スポーツ科学プログラム
取得できる学位：学士（教育学）

◆プログラムの概要と人材養成のねらい

本プログラムでは，本学科の特色である教育マインドを基盤にし，様々なスタイルの指導力を高めるための理論的・実践的課題に取り組むことで，優れたスポーツ実践力に基づいた指導者の養成を目指す。現代のスポーツ指導者は，学校教育を中心とした多様なスポーツ場面及び公共スポーツ，スポーツ関連産業など，生涯学習社会をめざすさまざまな社会的背景や年代の人々のスポーツのニーズに応えることが求められている。そのため，求められる指導の基盤となる力を，教育マインドとし，中でもスポーツ指導者にとって最も重要である子供たちの育成・指導という課題を中心として，現代教育の理解，そして汎用基礎力及び協働力を学び，同時に優れた運動技能や幅広い運動経験に基づく理論的な基盤と指導力（コーチング）を持った人材育成を目的とする。

◆プログラムの到達目標（ディプロマ・ポリシー）

（１）豊かな教養と広い視野 ・人文，社会，自然，芸術，スポーツ等の学術的・実践的な基本的知識とアカデミックライティングなどの初年次に必要な基本的スキルを学び，キャリア形成に向けた，ICT活用能力，言語運用能力，コミュニケーション力，および論理的・批判的思考からなる汎用基礎力を身に付けている。 ・世界の多様性を理解し，異文化・多文化を受容できる寛容な態度を身に付けている。
（２）教育理解 ・社会や教育現場のグローバル化に対応し，学校や地域等と連携・協働しながら課題解決にあたる教育協働人材としての意欲や態度を身に付けている。 ・教育の理念や歴史及び思想，子どもの発達と心理の理解，教育制度全般や学校の組織と役割の理解等の教育の基礎理論，及び学校安全に関する理解を含む教育についての基礎的知識を身に付けている。
（３）協働力 ・他者と協働してスポーツに関する諸問題を分析し，その課題を整理することができる。 ・他者と協働して課題解決に向けてのプランを策定することができる。 ・課題解決プランを他者と協働して実行するための実践力を身に付けている。
（４）専門的知識・技能 ・スポーツに係る専門的知識・技能を備えている。 ・専門的知識・技能を用いて，専門分野に関わる内容やその意義を社会に向けて的確に伝達，表現することができる。 ・専門的知識・技能を主体的に活用し，行動することができる。
（５）教育協働実践力 ・教育的視点から学校・家庭・地域・社会と連携・協働することで，グローバル時代における多様な課題を解決するために実践的に行動できる。

◆カリキュラム立案と実施方法についての方針（カリキュラム・ポリシー）

●豊かな教養と広い視野を育成するため，学術的な基本的知識の獲得とアカデミックライティングなどの大学生活を送る上で必要な資質・能力やキャリア形成に向けた語学運用能力，ICT 活用能力の育成などを盛り込む教養教育の質的充実を図る。
●教育の理解を深めるため，教育基礎科目における「教育基礎セミナー」や「ダイバーシティと教育」,「現代社会と子どもの権利」,「教育総論」,「学校の役割と経営」や「学校安全」などにより体系的に編成する。
●協働力を育成するため,専門教育科目に教育協働科目を開設し,「教育協働概論Ⅰ・Ⅱ」,「教育協働実践デザイン演習」などの協働共通科目，専攻共通科目を体系的に編成する。
●専門的知識・技能を身に付けさせるため，専門教育科目において，スポーツ科学に関する専攻分野科目を体系的に編成する。
●教育協働実践力を育成するため，専門教育科目における教育協働科目「教育コラボレーション演習」,「外国語実践演習」，課題解決型学習（PBL）科目であるプロジェクト演習科目などにより体系的に編成する。
●各授業は，講義・演習・実験・実習などの方法により展開する。
●成績評価は，全学共通の評価基準を明示の上，プレゼンテーション，レポート，試験など，多様な方法により行うものとするとともに，どのように成績に反映されるか，シラバスに明記する。
●指導技術を向上させるための研修や教員同士での授業参観などを定期的に開催し，授業改善に取り組む。

◆プログラムの履修要件（アドミッション・ポリシー）

●スポーツ教育について強い関心と意欲を持つ人
●子どもの育成に取り組むスポーツ指導者をめざす人
●学校や地域スポーツの指導者をめざす人

◆各回生の到達目標

履修回生	到達目標
１回生	豊かな教養と広い視野を醸成する上で必要不可欠な基本的知識・技能を体系的に理解し，修得する。 教育を考えていく上で必要となる教育の理念や歴史，子どもの発達に関する基本的知識や教育協働の基礎的概念を修得する。 ダイバーシティ教育の基礎について学び，現代社会や学校教育における子どもの多様性について理解を深める。 教育協働人材として必要となるスポーツに関する基礎的知識を修得する。

２回生	教育を考えていく上で必要となる学校の役割や学校安全に関する基本的知識を修得し教育の基礎理論を理解するとともに，社会教育や教育協働に関する関心を深める。 教育協働人材として必要となるスポーツに関する基礎的知識・技能を修得するとともに今日的な課題について関心を深め，スポーツ指導者・実践者として必要な基礎を養う。
３回生	教育協働人材として必要となるスポーツに関する専門的知識・技能を修得するとともに，スポーツ指導者及びチーム学校の一員になるために必要とされる対応力を養う。 また，教育協働の概念を踏まえ，教育コラボレーション演習，外国語実践演習などの学びを通じて教育協働実践に向けた基礎技能を修得する。
４回生	４年間の教育課程の集大成とし，教育協働人材としての必要な知識・技能に係る到達点と課題を確認し，課題解決型学習（ＰＢＬ）を通じて，教育協働の実践力を深める。 スポーツ場面に実践者，指導者として立つための自覚と自信を育み，自ら考え，求め，学んでいく姿勢等，習得したことを実践場面に活かすことができる。

国立大学法人
大阪教育大学

大阪教育大学　教務課
〒582-8582　大阪府柏原市旭ヶ丘4-698-1
TEL.072-978-3265
http://osaka-kyoiku.ac.jp/